

和同産業株式会社



本 社 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221

花巻営業所 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地
TEL 0198-24-3265 FAX 0198-41-1221

長野営業所 〒381-2207 長野県長野市大橋南2丁目19番地
TEL 026-285-0885 FAX 026-285-0887

岩見沢営業所 〒068-0852 北海道岩見沢市大和2条3丁目9番地
TEL 0126-22-6221 FAX 0126-32-2162

岡山出張所 〒710-0837 岡山県倉敷市沖新町5番地8号
TEL 086-426-0050 FAX 086-426-0100

URL / <http://wadosng.jp/>

お客様メモ

購入日 平成 年 月 日

購入店

本冊子には再生紙を使用しています。

91901-P07-000

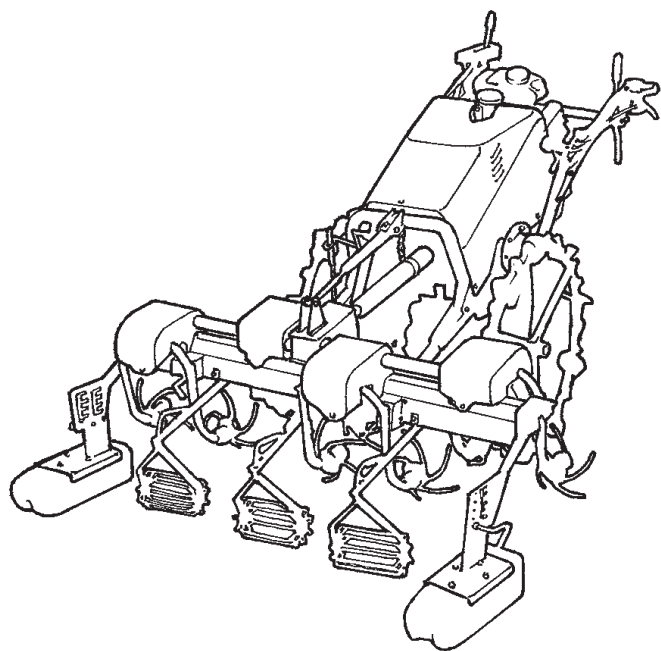
取扱説明書

WADO

ワドー水田用除草機

RSJ-430T

RSJ-433T



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、ワドー水田用除草機をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、機械の取扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- 本機を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読んで、十分理解してから使用してください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および警告ラベルを、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特約店または販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全に作業するために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特約店・販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。販売店へご相談ください。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

取扱いの注意

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

参考

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

- 本製品は、水田の雑草を除去する作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
- 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、製品保証書をご覧ください。）

もくじ

1章	安全に作業するために必ずお守りください	1
1.	一般的な注意項目	1
2.	作業前後の確認時の注意項目	4
3.	輸送時の注意項目	8
4.	移動・作業時の注意項目	10
5.	作業終了後・格納時の注意項目	17
6.	警告ラベルの貼り付け位置	18
2章	保証とサービスについて	20
3章	除草機に適したほ場	21
4章	各部のなまえ	22
5章	各操作部のはたらき	23
6章	運転前の準備・点検	30
7章	エンジンのかけかた	35
8章	除草作業のしかた	38
9章	除草機の止めかた	54
10章	車への積載のしかた	56
11章	定期点検	57
12章	点検・整備のしかた	58
13章	長期間使用しないときの手入れ	66
14章	不調診断のしかた	68
15章	その他	69

1章 安全に作業するために必ずお守りください

ここに記載されている注意事項を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 一般的な注意項目



注意

「取扱説明書」をよく読んで。

本機を使用する前に、必ず「取扱説明書」をよく読んで、十分理解してから使用してください。
取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



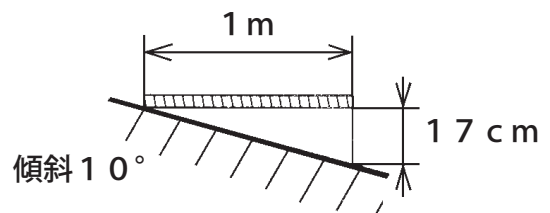
危険

傾斜 10° を超える斜面では本機を使用（移動）しない。

傾斜 10° を超える斜面では本機を使用（移動）しないでください。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。



警告

こんなときは運転しない。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18歳未満の人。



すべりにくい靴などの作業に適した服装を心がけてください。

はち巻き、首巻き、腰タオルは禁止です。

ヘルメット、すべり止めの付いた長靴を着用し作業しやすい、だぶつきのない服装をして下さい。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、ケガをするおそれがあります。



長時間作業時は休息をとる。

約2時間作業したときは、10分程度の休息をとり、心身ともにリフレッシュしてください。

【守らないと】

事故、ケガをまねくおそれがあります。



水田除草目的以外の作業は絶対禁止。

本機は水田用除草機です。水田除草目的以外の使用は絶対しないで下さい。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



機械を他の人に貸すときは。

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



機械の改造や指定以外のアタッチメントの装着禁止。

改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



機械の中に手を入れない。

カバーの中には回転部や可動部があり、むやみに手などを入れると大変危険です。やむをえないときは必ずエンジンを停止してから行ってください。

【守らないと】

回転物などに巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。

2. 作業前後の確認時の注意項目



危険

注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う。

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・点検をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災の原因となることがあります。



危険

燃料補給時は火気厳禁。

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明など火気厳禁です。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



危険

機械の下にもぐったり、足を入れない。

機械の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で機械が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



警告

排気ガスには十分に注意。

しめきった屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



燃料もれに注意する。

燃料チューブが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



燃料給油キャップを締め、こぼれた燃料は拭き取る。

燃料を補給したときは、燃料給油キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こす原因になります。



電気部品・コードは必ず点検。

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因となることがあります。



除草する水田の異物はあらかじめ取り除く。

あらかじめ除草する水田の木片・ビニール・ビン・カン・ホース・ナワ・布切れ・およびその他の異物をすべて取り除いてください。

【守らないと】

除草作業中に取り込んだ異物などが飛び出し、思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



マフラー・エンジンのゴミは取り除く。

マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料など付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。



点検整備は平坦で安定した場所で行う。

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



作業前には必ず安全装置を確認する。

作業前に安全装置の取扱いと、適切に働くかを確認してください。

【守らないと】

安全装置が作動せず、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



作業前・後は必ず機械の点検をする。

使用前の前後には必ず機械の点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は確実に作動することを確認してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



カバーやラベル類は必ず取り付ける。

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付け、ラベル類が損傷した場合は直ちに貼り替えてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検整備は過熱部が十分冷めてから。

マフラーやエンジンなどの過熱部が十分冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



機械の点検整備・清掃などをするときにはエンジンを停止する。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。

3. 輸送時の注意項目



トラックへの積み込み時は、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する。

アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準にあったものを使ってください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして転倒し、傷害事故をおこすことがあります。

<アユミ板の基準>

強度：機体の重量に十分耐えるもの

幅：240mm以上

長さ：荷台の高さの3倍以上

：すべり止めのあるもの

：フックのあるもの



アユミ板は確実に固定する。

積み込み・積み降ろしをするトラックの荷台からズレたり、外れたりしないように確実にアユミ板を固定してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

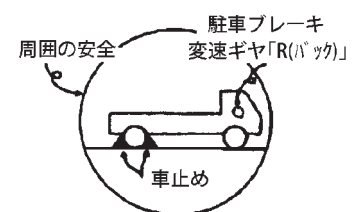


トラックには必ず車止めを。

積み込むトラックのエンジンを止め、変速は「P」または、「1」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて。

トラックなどからの積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



誘導者は機械の近くには絶対立たない。

トラックへの積み込み・積み降ろし作業の誘導者は機械の近くには絶対立たないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



トラックへの積み込みは前進で、積み降ろしは後進で行う。

トラックへの積み込みは前進で、積み降ろしは後進でゆっくりと慎重に行ってください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



ロープで確実に固定し、トラックは安全運転をする。

トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに確実に固定し、トラックの運転は急発進・急ブレーキ・急ハンドルなどをさけ、安全運転をしてください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。



アユミ板の上ではクラッチレバーの操作厳禁。

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて低速で行ってください。走行クラッチレバー、サイドクラッチレバーの操作はしないでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



注意

積み込み・積み降ろし作業は、作業クラッチが必ず切れている事を確認してから行う。

トラックへの積み込み・積み降ろしは、作業クラッチが必ず切れている事を確認してから行ってください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。



注意

トラックの荷台より、本機をはみ出さない。

トラックに積み込んで移動する際は、荷台から本機がはみ出さないようにしてください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。

参考

RSJ-433Tは軽トラックに積み込むことはできません。

また、オプションアタッチメントを付けたままでも積むことはできません。

4. 移動・作業時の注意項目



危険

つまった草や異物を取り除くときはエンジン停止。

作業部に草や異物がつまった場合には、必ずエンジンを停止し、各動作部が完全に止まっていることを確認してから、取り除いてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて重傷を負うおそれがあります。



除草作業中は機械のまわりに人や動物を近づけない。

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



エンジン始動時は周囲の安全を確認し、走行クラッチレバー・作業クラッチレバーを「切」位置にし、変速レバーを「中立」位置にする。

【守らないと】

機械が急発進してケガをするおそれがあります。

参考

本機は、走行クラッチレバーと作業クラッチレバーを共に「切」位置にしないとエンジンが始動しないしくみになっています。エンジンが始動する場合は修理の上、使用してください。



後進するときは低速で障害物に注意。

後進するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して、障害物と機械の間に挟まれないようにしてください。

【守らないと】

機械に挟まれたり、転倒などの重大事故のおそれがあります。



坂道は走行注意。

急な坂道は走行しないでください。

やむをえず坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて、低速でゆっくりと移動してください。

【守らないと】

機械の横転、暴走など思わぬ事故を引き起こす原因となります。



坂道では駐車禁止。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因となります。



坂道・アユミ板の上で変速、サイドクラッチの操作禁止。

坂道の途中でサイドクラッチ操作はしないでください。

【守らないと】

滑り落ちたり、転倒などの事故の原因となります。



わき見運転や手放し運転禁止。

【守らないと】

傷害事故の原因となります。



夜間や、視界の悪いときは運転しない。

【守らないと】

視界不良により事故などの原因となります。

参考

本機は、作業灯が付いておりませんので、夜間は運転しないでください。



溝・あぜを渡るときはアユミ板を使用する。

ほ場に入るとき、あぜや溝を渡るとき、軟弱な場所を通るときは必ずアユミ板を使用してください。アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。



ほ場への出し入れは最低速度で。

ほ場への出し入れは最低速度で行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因になります。



ほ場の出入りはあぜに対して直角に。

ほ場の出入りやあぜを越えるときは最低速にして、あぜに対して直角に越えてください。

【守らないと】

スリップしたり転倒したりするおそれがあります。



燃えているものの上やその近くは走行禁止。

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火して、火災になるおそれがあります。



警告

スクリューが回転中は危険なので近づかない。

スクリューが回転中は危険なので近づかないでください。また、作業クラッチレバーを操作するときは、周囲の安全を確かめてから行ってください。

【守らないと】

スクリューに巻き込まれて傷害事故の原因となります。



警告

機械の異常に気付いたらすぐにエンジン停止。

異物が当たったり、巻き付いたり、異常振動、異音、異臭などに気付いたら、すみやかにエンジンを停止し、過熱部が冷めてから点検してください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



警告

回転部に手・足・顔を近づけない。

回転している部分をのぞき込んだり、手・足・顔を絶対に近づけないでください。

【守らないと】

巻き込まれたり、飛散物などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



注意

周囲に合図して、ゆっくりと発進。

レバー位置を確認し、安全を確保して周囲の人に合図してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



注意

急発進・急旋回・急停止やスピードの出しすぎ禁止。

発進・停止はゆっくり行ってください。旋回するときは、十分速度を落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では十分速度を落としてください。

【守らないと】

機械の破損、事故の原因となることがあります。



注意

移動時は路肩に注意。

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

【守らないと】

転落事故を引き起こすおそれがあります。



注意

周囲の安全を確かめ低速で発進する。

急発進や急旋回をしないで周囲の安全を確認してゆっくりと発進してください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



注意

移動時には作業クラッチレバーを「切」位置にする。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



スクリューへの巻き込まれ注意。

除草作業時以外は、作業クラッチレバーを「入」位置にしないでください。スクリューが回り危険です。

【守らないと】

巻き込まれて傷害事故の原因になることがあります。



公道走行禁止。

本機は小型特殊自動車型式認定の対象外のため、型式認定を受けることができません。したがって法令により公道を自走することができません。トラック等に載せて移動してください。

【守らないと】

交通事故をまねくおそれがあります。

5. 作業終了後・格納時の注意項目



シートなどは機械が十分冷めてからかける。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



機械の清掃・点検をするときはエンジンを停止する。

【守らないと】

機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。



定期点検整備を受けてください。

1年ごとに定期点検を受け、各部の保守をしてください。

【守らないと】

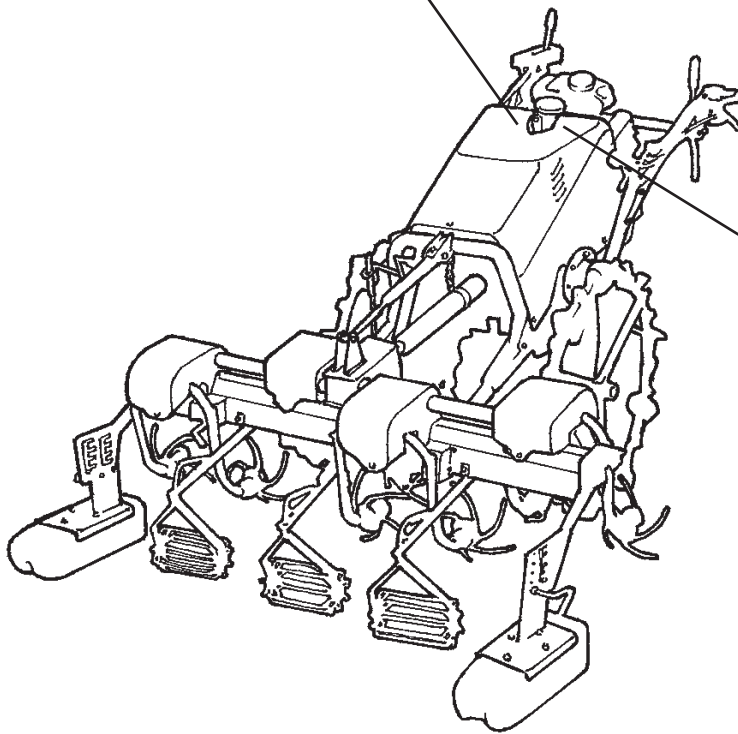
整備不良による事故や、機械の故障を生じるおそれがあります。


6. 警告ラベルの貼り付け位置

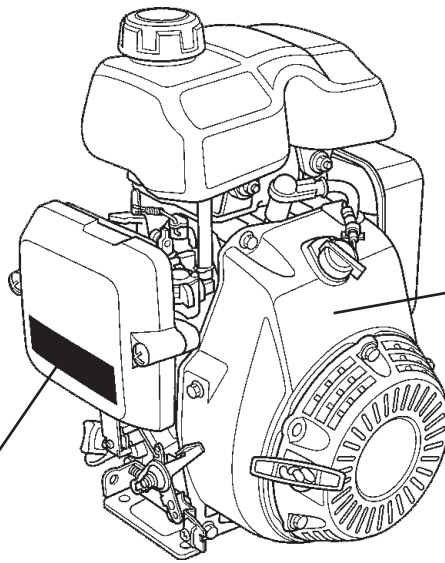
警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへの危険を知らせる大事な物です。ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。

なお、注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。

 <p>注意</p> <p>点検時 エンジン 停止</p> <p>●点検整備をするときは、エンジンを停止してください。●ケガをするおそれがあります。</p>	 <p>注意</p> <p>●発進時、走行クラッチレバーを「入」位置にするときは、変速レバーを「中立」位置にしてください。 ●急発進により、ケガをするおそれがあります。</p>
91195-002	91195-006
点検時注意ラベル	発進注意ラベル



 <p>警告</p> <p>●傾斜面での走行や本機をトラックに積み込むときはサイドクラッチレバーをにぎらないでください。 ●本機がすべり落ちてケガをするおそれがあります。</p>
79906-P04-001
傾斜警告ラベル
 <p>注意</p> <p>●作業前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。 ●操作装置位置と機能をよく理解してから、運転してください。</p>
91195-005
取扱説明書注意ラベル

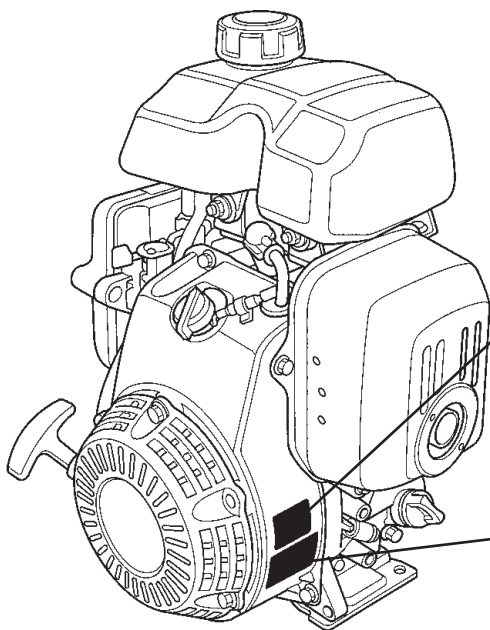


ガソリン

79922-G20-000
ガソリンマーク


注意	警告
 傷害事故防止のため、 運転前に取扱説明書 を読み、理解して正 しく取扱うこと。	 火気 厳禁 火災や爆発により死傷 するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止 すること。 ●給油口に火を近づけないこと。

87520-ZL8-810
マークA, コンビネーション (J)



注意	
 ヤケドをする のでマフラーに ふれないこと。	

87539-737-J00
マーク, ヒートコーション

警告	
 排気ガスによる中毒 のおそれがあるので、 換気の悪い所で使用 しないこと。	

87561-733-J00
マーク, エキゾーストガスワーニング

2章 保証とサービスについて

製品保証書は大切に保管してください

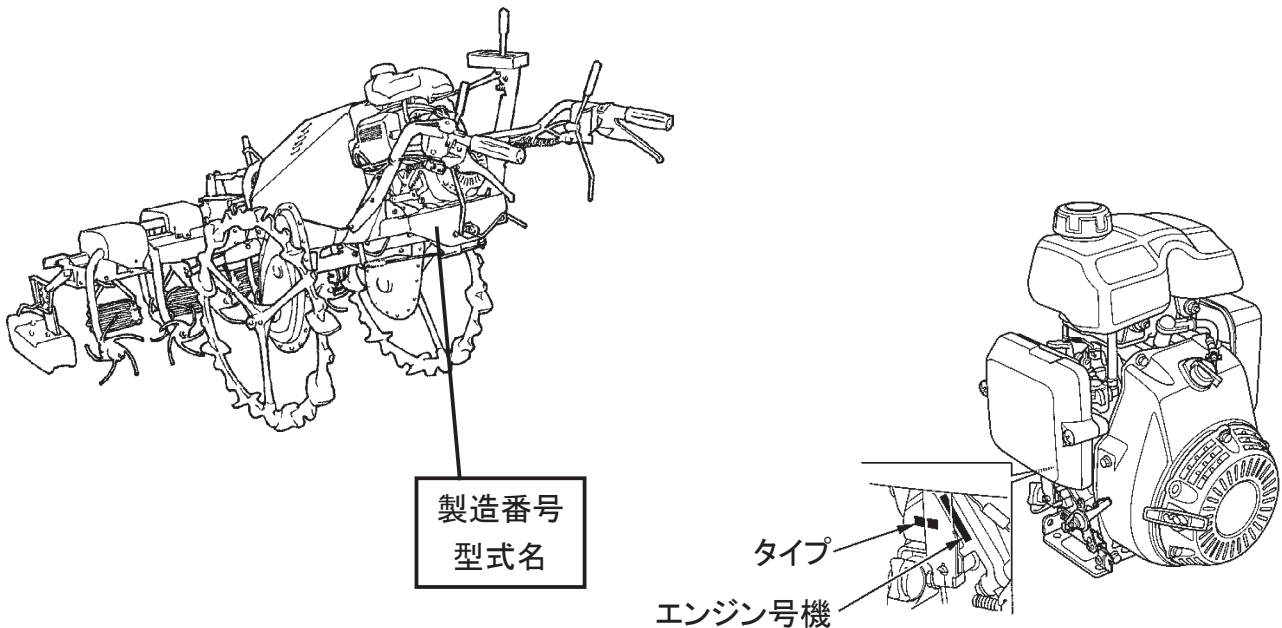
「製品保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに「14章 不調診断のしかた」(68ページ)に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特約店・販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジンのタイプと号機
- ご使用状況は？
(車速や、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3章 除草機に適したほ場

ほ場や作物の移植の条件が除草機に適していないと、除草作業や除草後の作物の生育に支障をきたすことがあります。以下の条件をよくご理解いただき適切な条件を整えてください。

1. 深水に適したほ場を準備してください

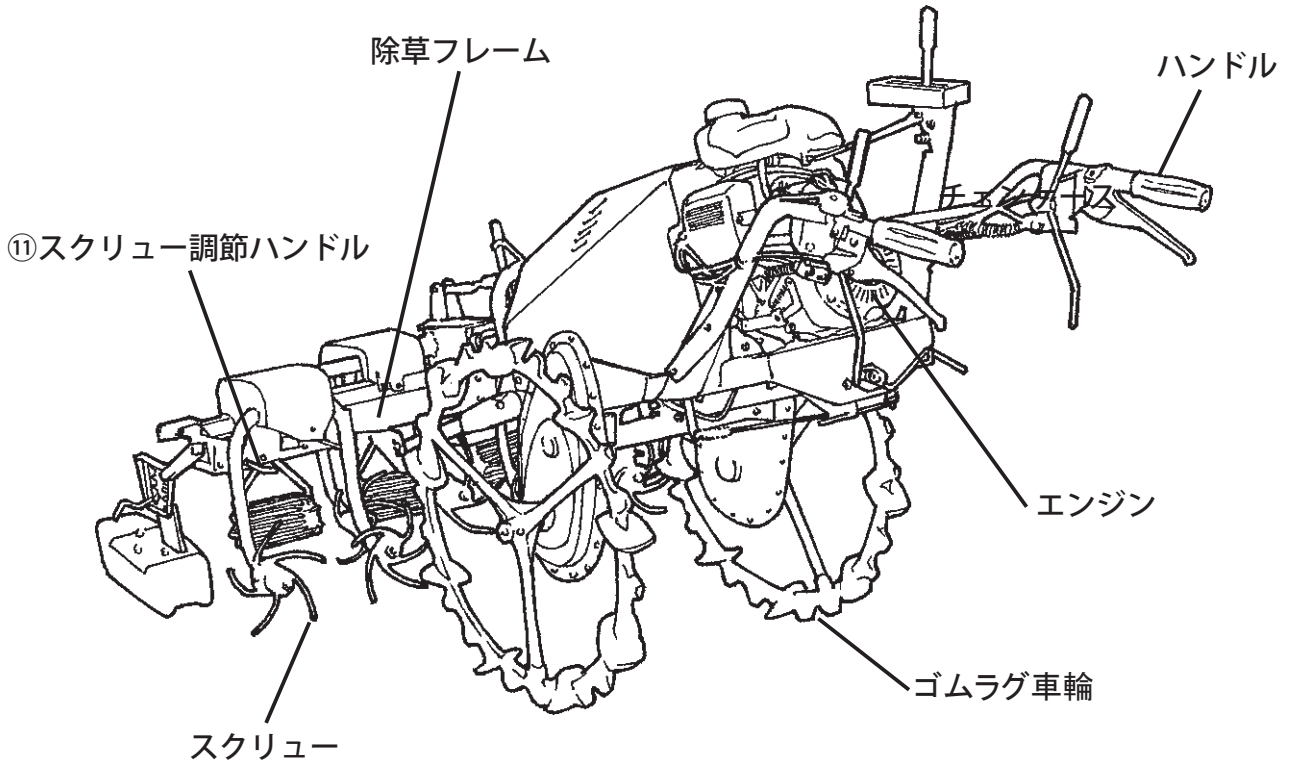
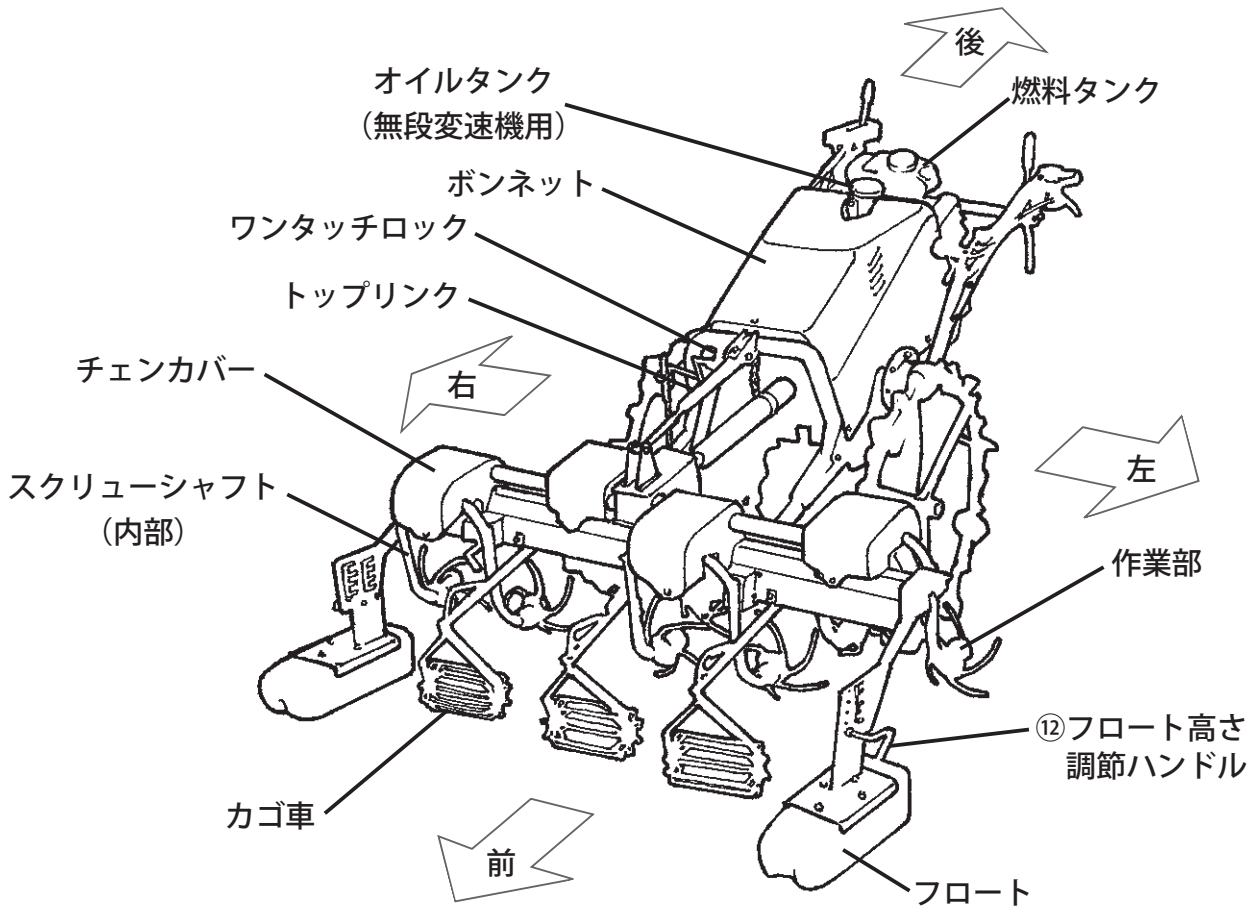
除草期間中は深水状態にする必要があります。あぜを塗るなどあらかじめほ場を整えてください。また、入水しやすいほ場での使用をお勧めします。

2. 適切な耕盤深さのほ場で使用してください

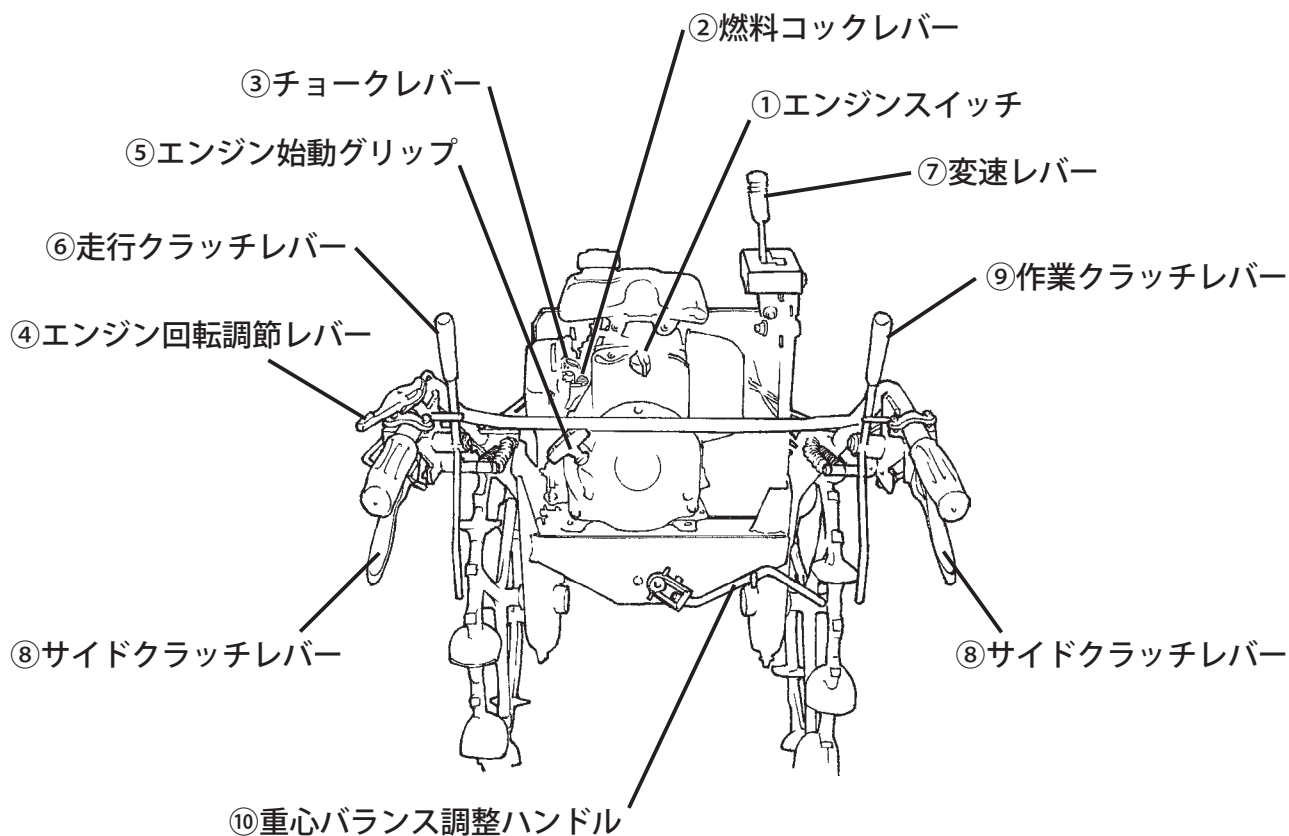
耕盤の深いほ場で無理に作業を行うと、本機の走行に支障をきたすだけでなく作物を掘り起こしたり埋没したりする恐れがあります。耕盤が浅いほ場でも除草期間中に何度も同じ場所を走ると深くなる恐れがあります。本機の推奨耕盤深さは20～25cmです。

耕うんのしかたは41ページを参照してください。

4章 各部のなまえ



5章 各操作部のはたらき

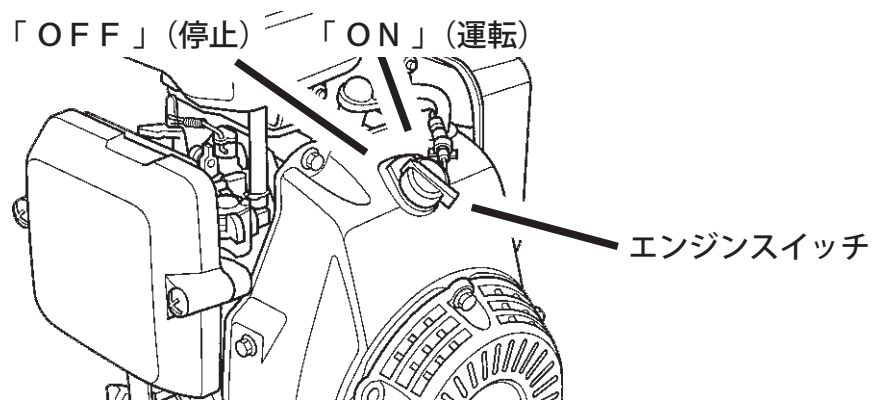


① エンジンスイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。

「OFF (停止)」・・・エンジンを停止する位置です。

「ON (運転)」・・・エンジン運転中の位置です。この位置でエンジン始動グリップを引くとエンジンが始動し連続運転します。

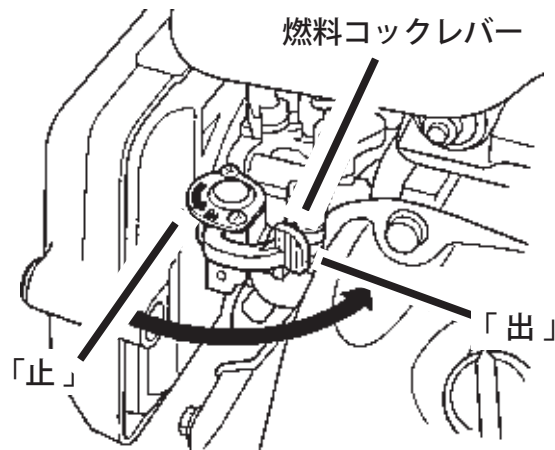


②燃料コックレバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉するときに操作します。燃料コックレバーの操作は確実に「止」「出」の位置にあわせてください。

「止」・・・燃料通路を閉じます。本機を使用しないときに操作してください。

「出」・・・燃料通路を開けます。本機を使用するときに操作してください。



③チョークレバー

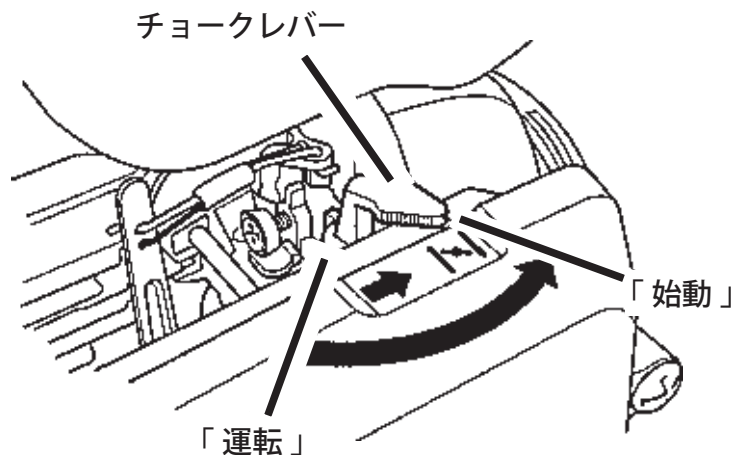
エンジンがかかりにくいときに操作します。

「運転」・・・空気通路を開けます。エンジン運転時にこの位置にしてください。

「始動」・・・空気通路を閉じます。エンジン始動時に操作してください。

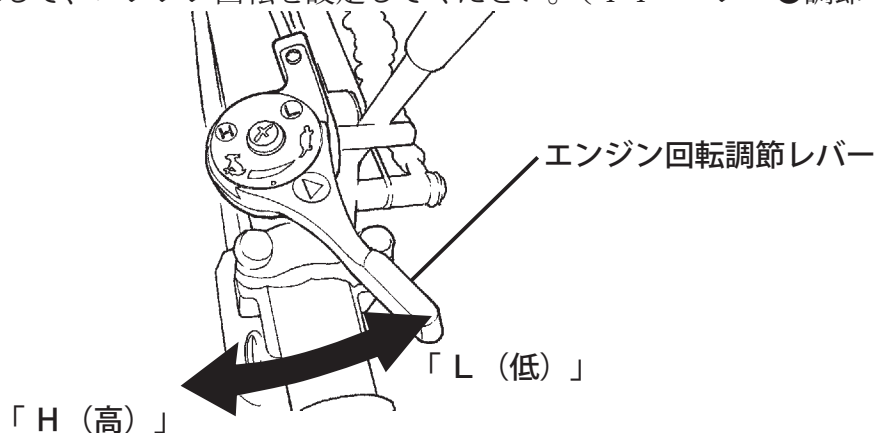
参考

チョークレバーを「始動」位置にしたときはエンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に「運転」位置にチョークレバーをもどしてください。



④エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときには操作します。「H（高）」側にエンジン回転調節レバーを操作すると回転は上がり、「L（低）」側にエンジン回転調節レバーを操作すると回転は下がります。水田や雑草の状況に応じて、エンジン回転を設定してください。（44ページ「●調節のポイント」参照）



⑤エンジン始動グリップ

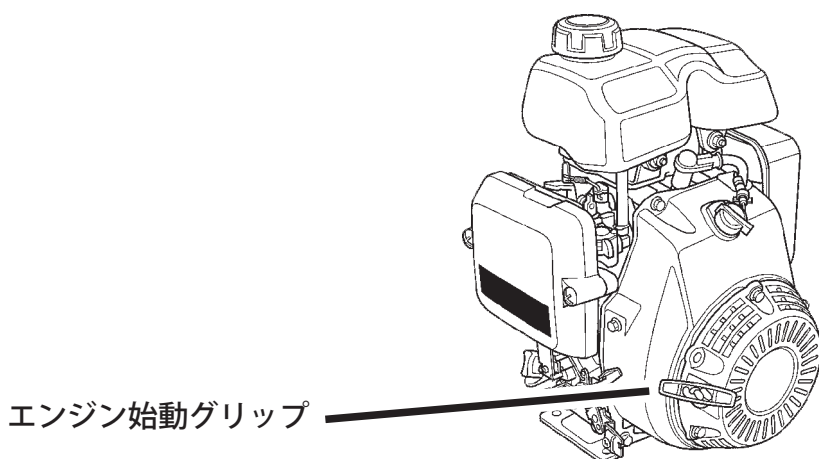
エンジンを始動するときにはエンジン始動グリップをにぎり引っ張ります。

参考

本機のハンドルなどの安全な部分をしっかり押さえ、エンジン始動グリップを軽く引き、重くなる場所をさがし勢いよく引きます。

取扱いの注意

- エンジン始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- エンジン始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中はエンジン始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



⑥ 走行クラッチレバー

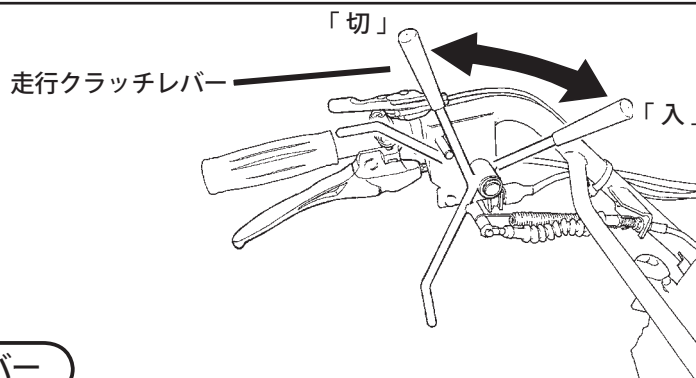
走行動力の断接をするときに操作します。走行クラッチレバーを「入」位置にすると動力がつながり走行できる状態になり、「切」位置にすると停止します。

⚠ 注意

走行クラッチレバーを「入」位置にする時は、変速レバーが「中立」位置にあることを確認してから操作してください。

参考

本機には始動けん制装置が装備されています。走行クラッチレバーが「入」位置にあるとエンジンは始動しません。



⑦ 変速レバー

前進や後進の切り替えと、速度を調節するときに操作します。

「前進」・・・変速レバーを前側に倒すと前進します。

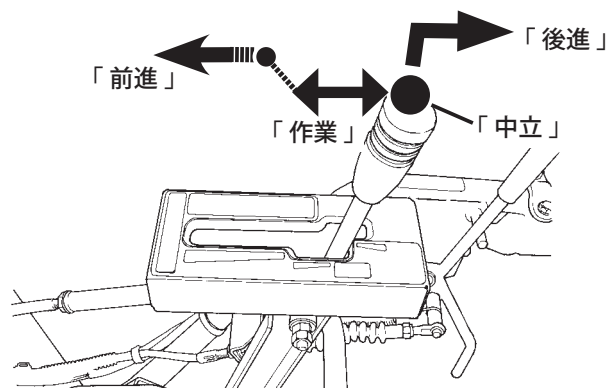
「作業」・・・作業時はこの範囲で使用してください。

「中立」・・・除草機が停止します。

「後進」・・・変速レバーを後側に倒すと後進します。(ほ場では操作しないでください。)

取扱いの注意

- ・ほ場内での除草機の後進はしないでください。
- ・除草機を停止させたときは、必ず変速レバーを「中立」位置にしてください。

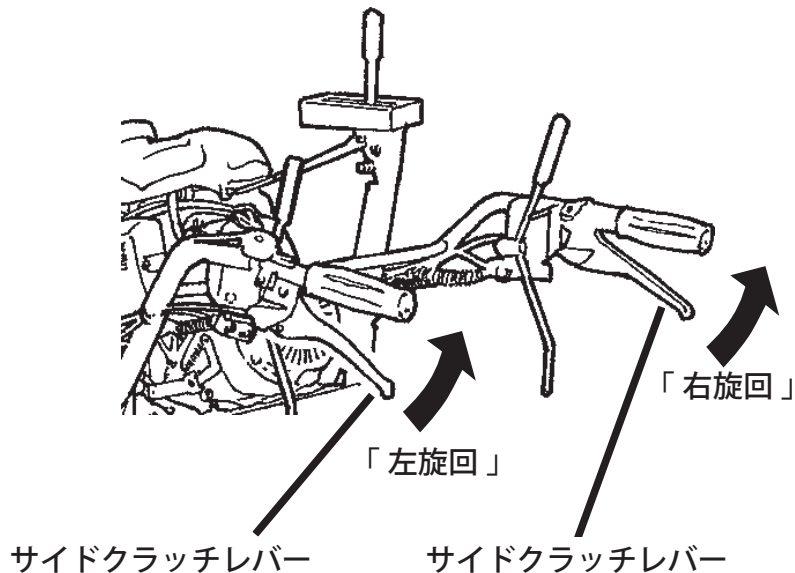


⑧サイドクラッチレバー

除草機の進行方向を変えるときに操作します。

「右旋回」・・・右側のサイドクラッチレバーを握る。

「左旋回」・・・左側のサイドクラッチレバーを握る。

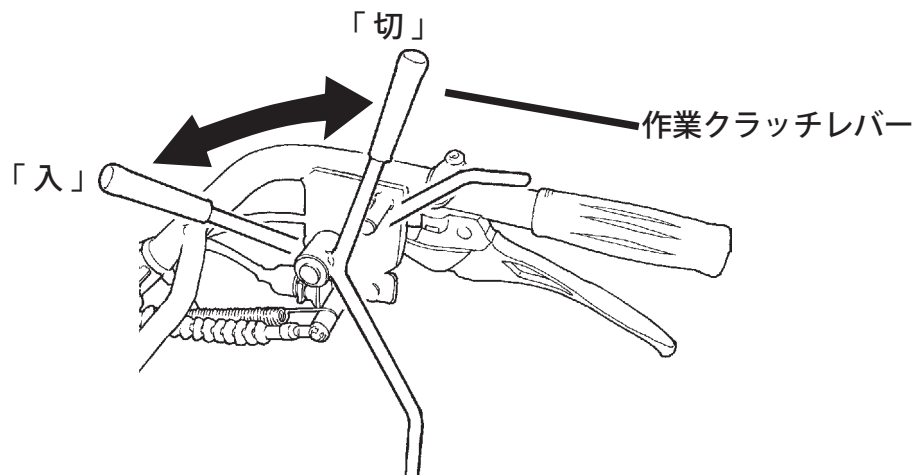


⑨作業クラッチレバー

作業動力の断接をするときに操作します。作業クラッチレバーを「入」位置にすると動力がつながりスクリーが回転します。「切」位置にすると停止します。

参考

- ・作業クラッチレバーを「入」位置にする時は、スクリーが地面より離れていることを確認してから操作してください。
- ・本機には始動けん制装置が装備されています。作業クラッチレバーが「入」位置にあるとエンジンは始動しません。



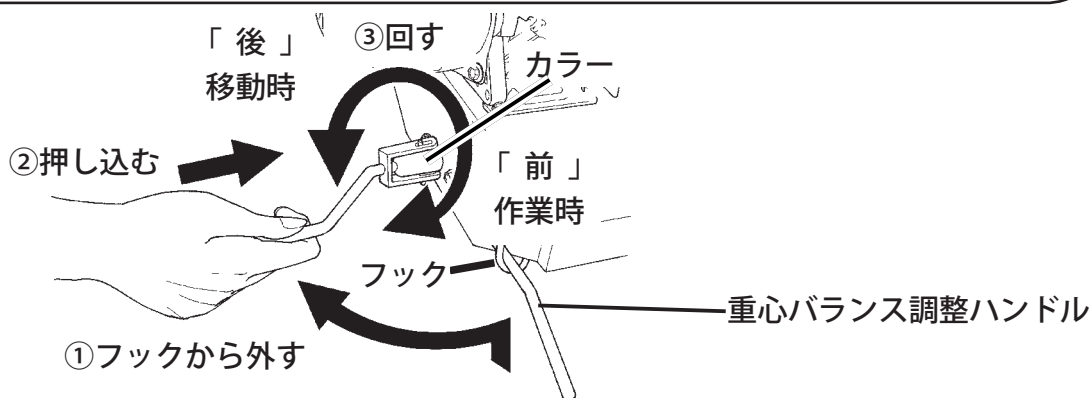
⑩重心バランス調整ハンドル

除草機の重心を変えるときに操作します。ハンドルフックよりハンドルを取り出し、重心バランス調整ハンドルの凸部をカラーに押し込んだ状態で重心バランス調整ハンドルを回転してください。

- 「前 作業時」・・・機体の重心が前に移動します。作業時に操作すると作業部の浮き上がりを抑え、安定した除草作業ができます。
- 「後 移動時」・・・機体の重心が後ろに移動します。移動時に操作するとハンドル操作がらくにできます。

参考

調整後は重心バランス調整ハンドルを所定のフックにかけてください。

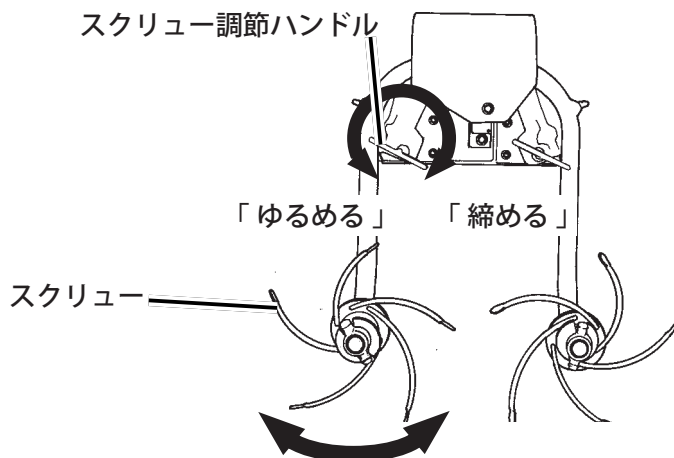


⑪スクリー調節ハンドル

スクリーの左右位置を調節するときには操作します。スクリー調節ハンドルを「ゆるめる」側に回すとスクリーを左右に動かすことができます。「締める」側に回すと固定することができます。

参考

- ・スクリーの位置は、ほ場の状態に応じて調節してください。
- ・除草作業をするときは必ずスクリー調節ハンドルを確実に締めてスクリーを固定してから使用してください。

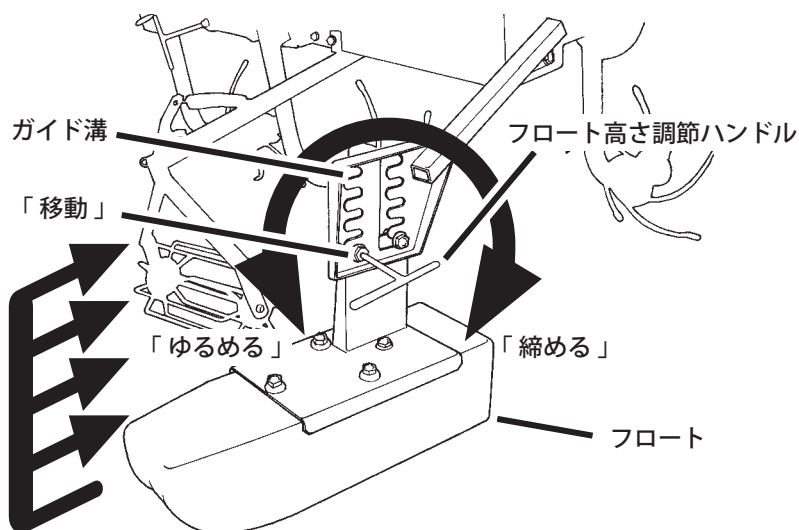


⑫フロート高さ調節ハンドル

スクリーの高さを調節するときに操作します。フロート高さ調節ハンドルを「ゆるめる」側に回すとフロートを上下に動かすことができます。「締める」側に回すと固定することができます。

参考

- ・スクリーの高さは、ほ場の状態に応じて調節してください。
- ・除草作業をするときはガイド溝に確実に固定してから使用してください。
- ・作業時以外は「移動」位置に固定してください。



6章 運転前の準備・点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。運転・作業を行う前には、機械の始業点検を行ってください。

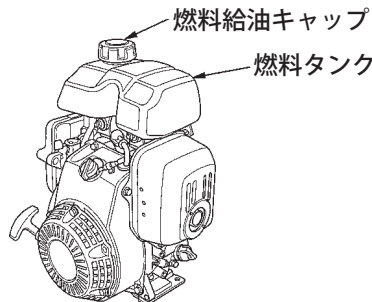
警告

1. 点検・整備を行うときは、必ず平坦なところでエンジンを停止させてから行ってください。
2. 燃料補給時は、くわえタバコ等火気厳禁です。燃料補給後は燃料給油キャップを確実に締め、燃料タンクや燃料パイプ等からの燃料もれがないか点検してください。守らないと火災事故の原因になります。
3. 燃料は注入口の口元まで入れず、所定の給油限界位置まで補給してください。入れすぎると燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。
4. 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布などで完全に拭き取り、火災、環境に注意し、処分してください。
5. エンジンが熱い間は、点検・整備等は絶対にしないでください。火傷をするおそれがあります。

注意

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 燃料の点検



1-1. 点検

燃料給油キャップを外し注入口より燃料の量を点検します。



1-2. 補給

不足している場合は、燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。

取扱いの注意

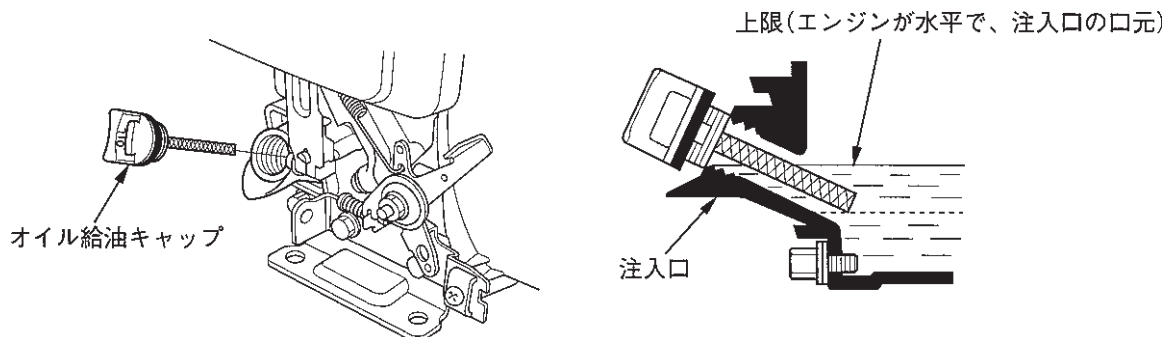
- ・ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- ・燃料給油キャップは完全に締め付けてください。

使用燃料・・・自動車用無鉛ガソリン
タンク容量・・・0.77リットル

2. エンジンオイルの点検

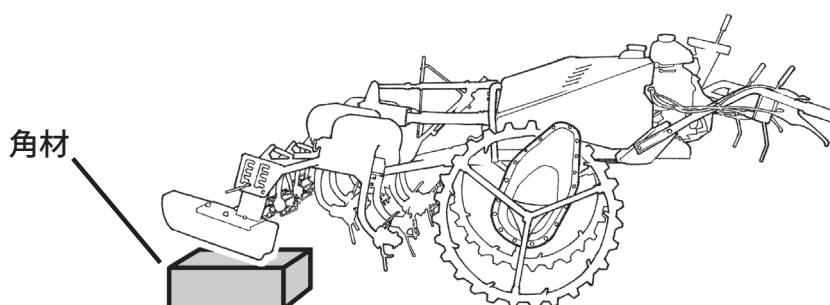
2-1. 点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



参考

エンジンを水平にししないと給油キャップを外したときに注入口よりエンジンオイルが漏れます。フロートと地面の間に角材等をおいてエンジンを水平にしてください。

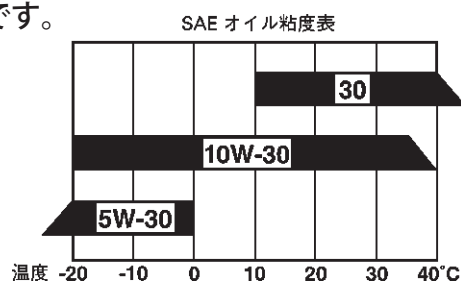


2-2. 補給

- ・不足している場合は、新しいオイルを注入口の口元まで補給してください。
- ・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(58ページ「エンジンオイルの交換」参照)

取扱いの注意

- ・エンジンの使用推奨温度範囲は、 -15°C から 40°C です。
- ・オイル給油キャップは確実に締め付けてください。
締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

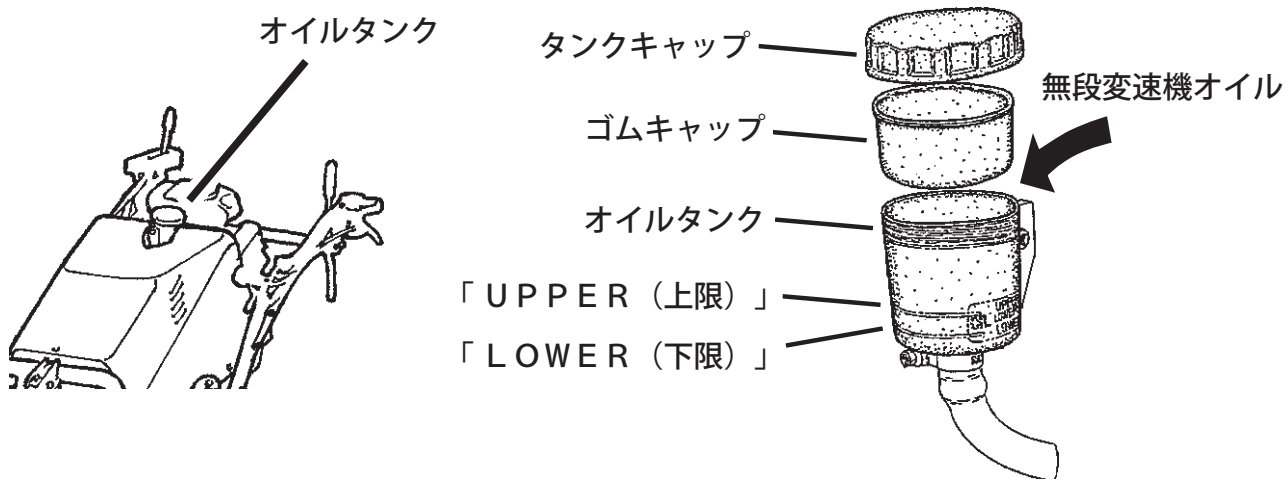


使用オイル・・・4サイクル ガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30 SE級以上

3. 無段変速機オイルの点検

3-1. 点検

エンジンを水平にした状態で、オイルタンクのオイルの量が「UPPER（上限）」と「LOWER（下限）」の間に油面があるか点検します。

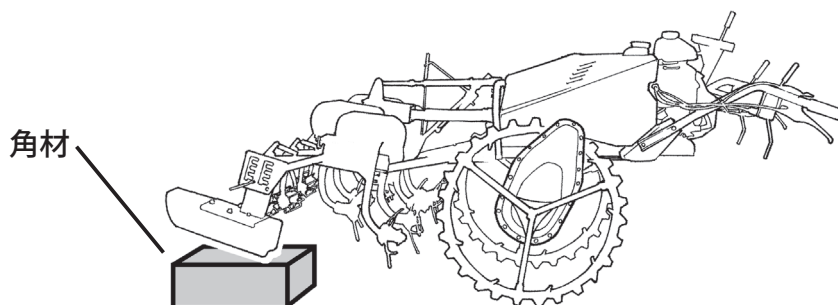


3-2. 補給

不足している場合はタンクキャップとゴムキャップを外し、新しい無段変速機オイルを「UPPER（上限）」と「LOWER（下限）」の間になるように補給してください。

参考

補給のときは、フロートと地面の間に角材等をおいてエンジンを水平にしてください。



取扱いの注意

- ・無段変速機オイルの点検と補給は本機が冷えているときに行ってください。
- ・補給時にはタンクの中にゴミなどの異物が入らないように、十分注意してください。異物が混入すると、変速機が故障する原因になります。
- ・タンクキャップとゴムキャップは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

使用オイル・・・4サイクル ガソリンエンジンオイル
SAE10W-30 SE級以上

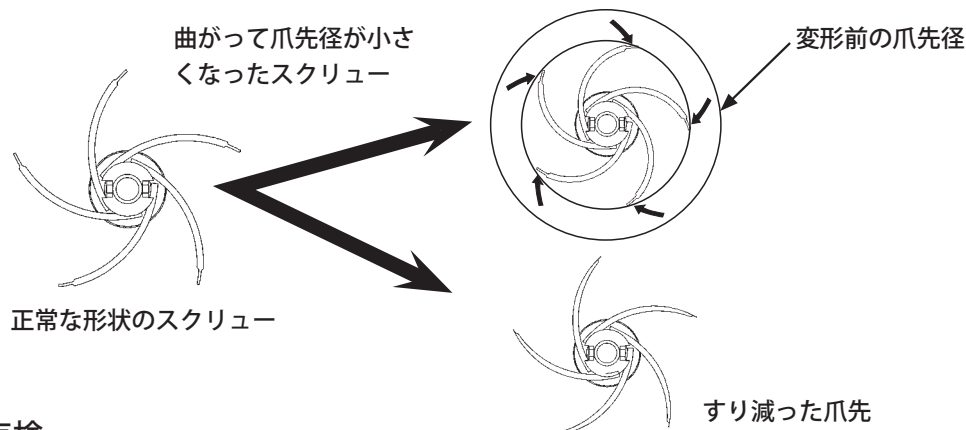
4. スクリューの点検

4-1. 外観の点検

スクリューの爪の部分に変形していたり、極端な摩耗がないか点検してください。

参考

爪の部分に変形していたり、摩耗していると十分な除草作業を行うことができません。



4-2. 動作の点検

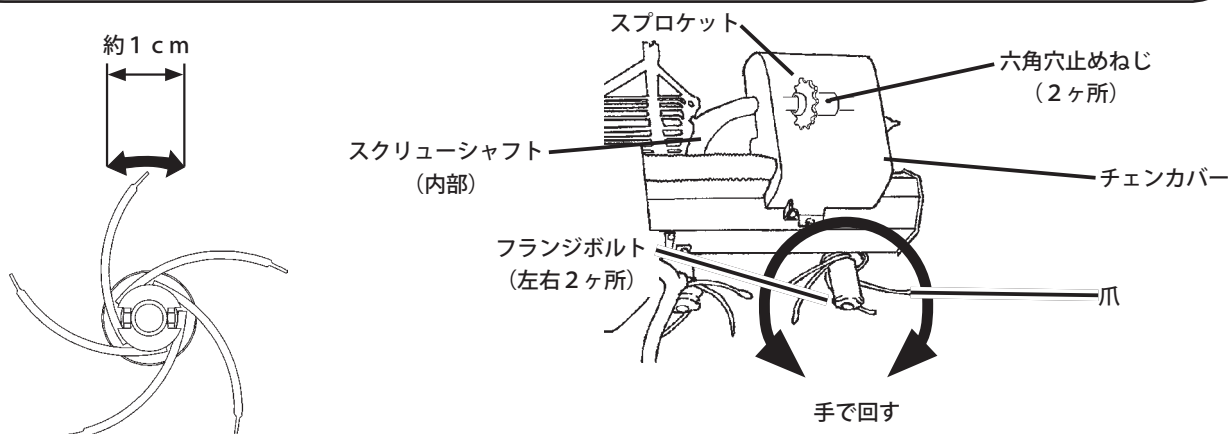
スクリューを手で回して点検してください。手でスクリューを回したときに、爪の先端が約1 cmほど動くとき正常な状態です。

取扱いの注意

- ・フランジボルトの締めすぎに注意してください。締めすぎるとスクリューシャフトを破損するおそれがあります。
- ・フランジボルトを締め付ける際は、ホースカラーのすり割の位置にボルトの先端がかからないように組付けてください。

参考

- ・スクリューを手で回すときはスクリューの爪に触れないようにしてください。
- ・スクリューが大きく回転する場合は、締め付けボルト等がゆるんでいるか、スクリューシャフトが折損している可能性があります。ボルト等が緩んでいる場合は下図のフランジボルトと六角穴止めねじ（チェーンカバーを外してください。）を締め付けてください（64ページ参照）。スクリューシャフトが折損している場合は交換してください。
- ・スクリューが全く回転しない場合は、錆び等で固着している可能性があります。スクリューを締め付けているボルトを外し、注油しながらスクリューを手で回してください。

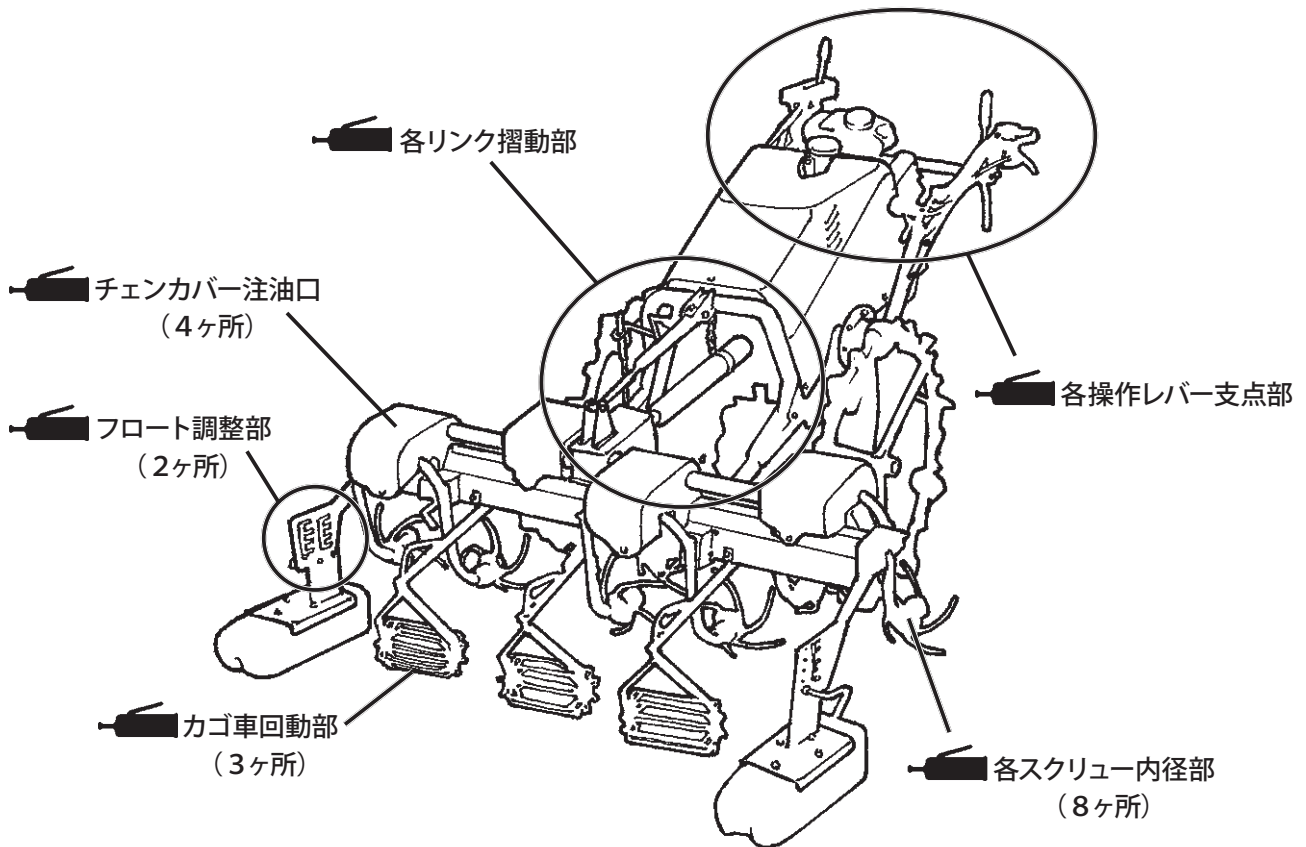


5. 動作部分の点検と給油箇所

回転部、摺動部がスムーズに動くか点検してください。

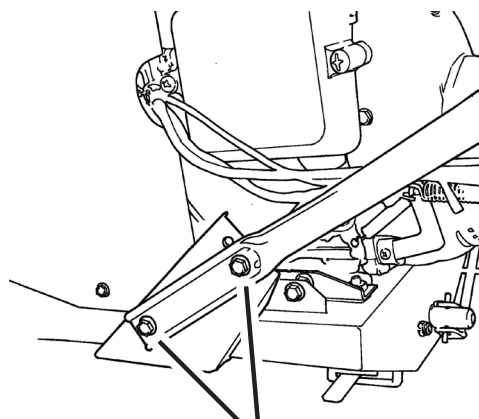
● ● ● グリスアップ箇所

使用グリス・・・シェル アルバニア グリース S 2 または 同等品



6. ハンドル高さ調整のしかた

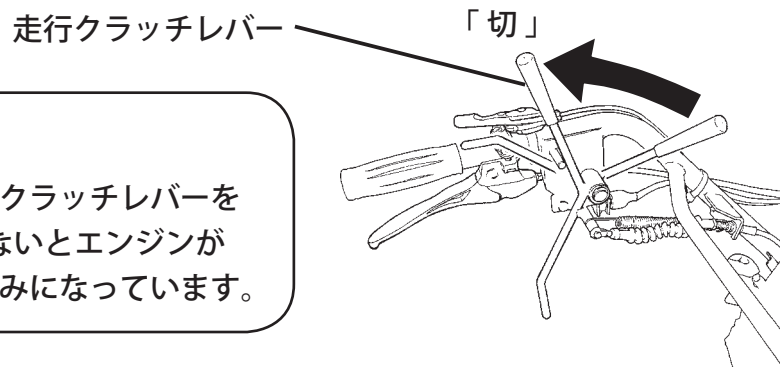
ハンドルの高さは2段階に調整することができます。作業者に合わせて調整してください。調整はハンドル高さ調整ボルトをゆるめて行います。調整後は確実に締め付けてください。



ハンドル高さ調整ボルト

7章 エンジンのかけかた

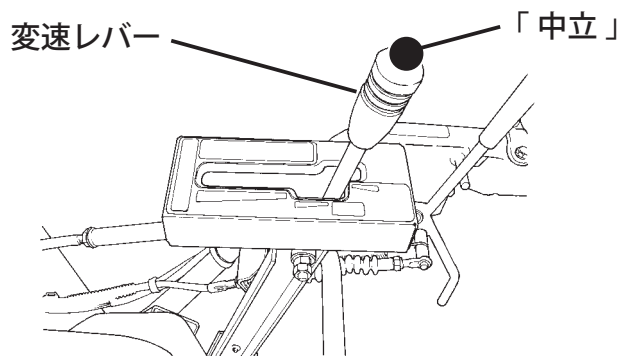
1. 走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。



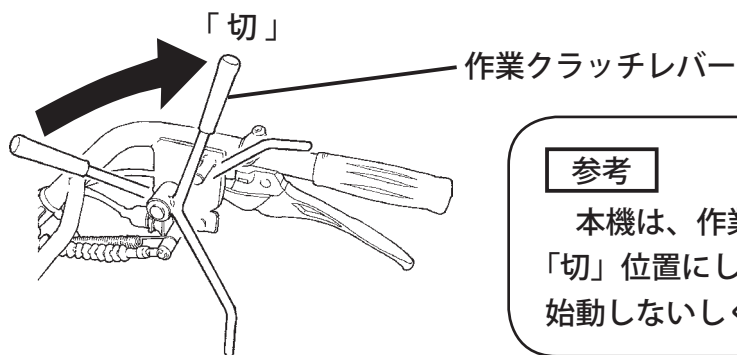
参考

本機は、走行クラッチレバーを「切」位置にしないとエンジンが始動しないしくみになっています。

2. 変速レバーを「中立」位置にしてください。



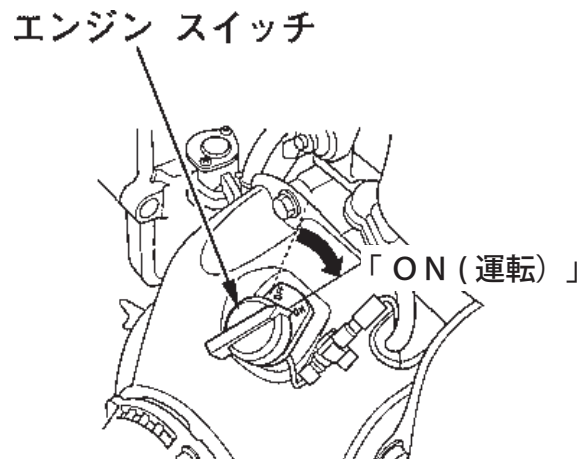
3. 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



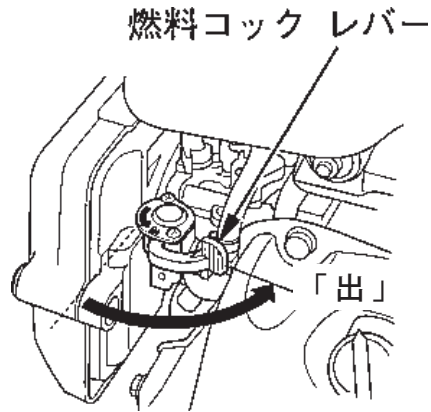
参考

本機は、作業クラッチレバーを「切」位置にしないとエンジンが始動しないしくみになっています。

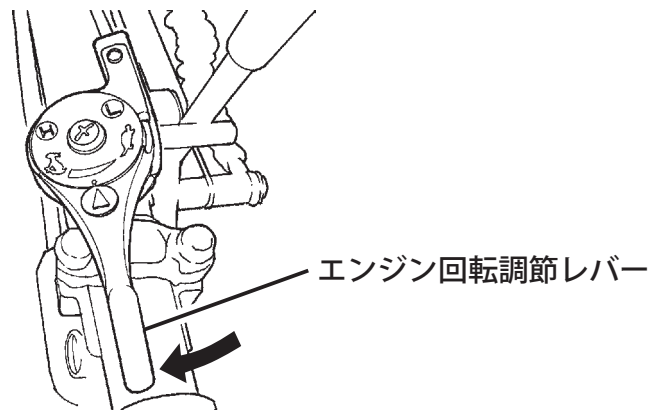
4. エンジンスイッチを「ON (運転)」位置にします。



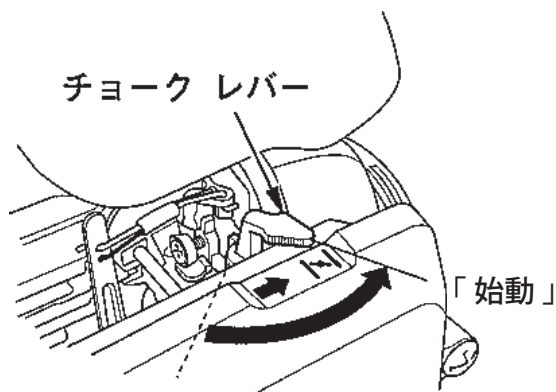
5. 燃料コックレバーを「出」の位置にします。



6. エンジン回転調節レバーを矢印の方向に少し動かします。



7. 寒いときやエンジンがかかりにくいときはチョークレバーを「始動」位置にします。



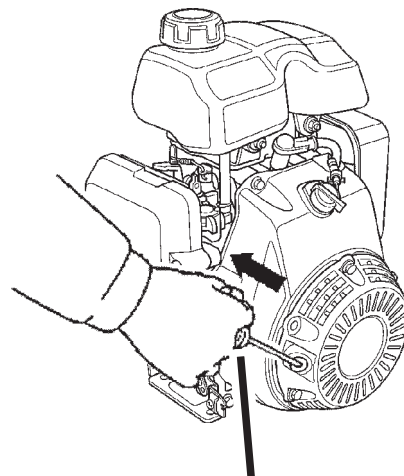
参考

エンジンが暖まっているときの
操作は不要です。

8. 本機のハンドルなどの安全な部分をしっかりと押さえ、エンジン始動グリップを軽く引き、重くなるところをさがし勢いよく引きます。エンジン始動グリップは図の矢印方向に引いてください。

取扱いの注意

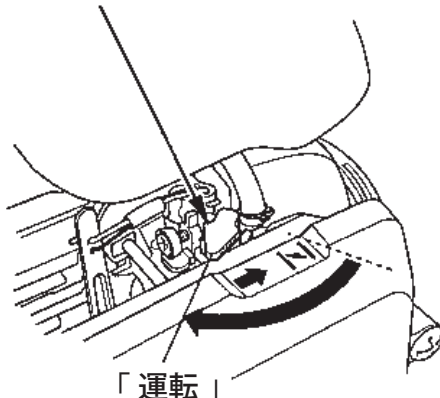
- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



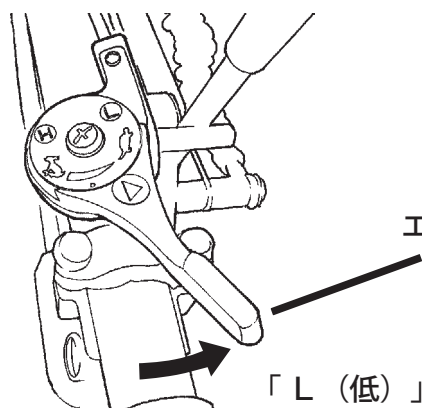
エンジン始動グリップ

9. チョークレバーを「始動」位置にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に「運転」の方向に戻します。

チョークレバー



10. エンジン回転調節レバーを「L (低)」側に操作し、2～3分間暖機運転を行ってください。



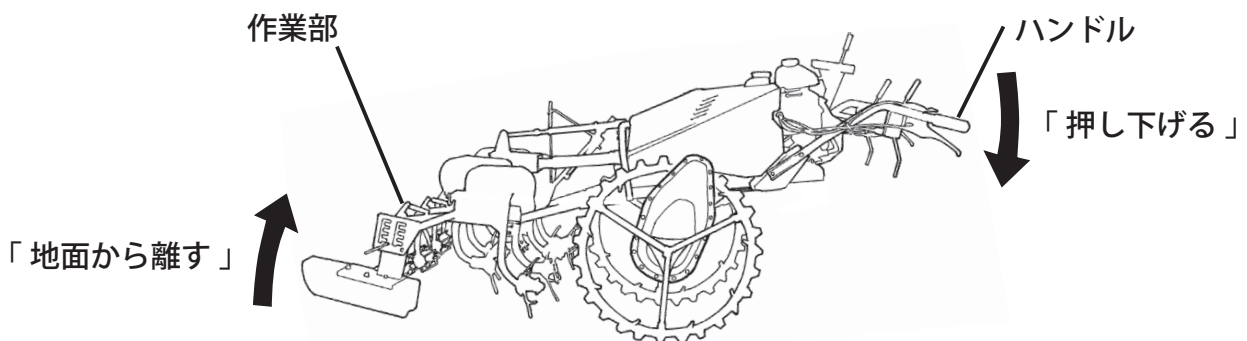
8章 除草作業のしかた



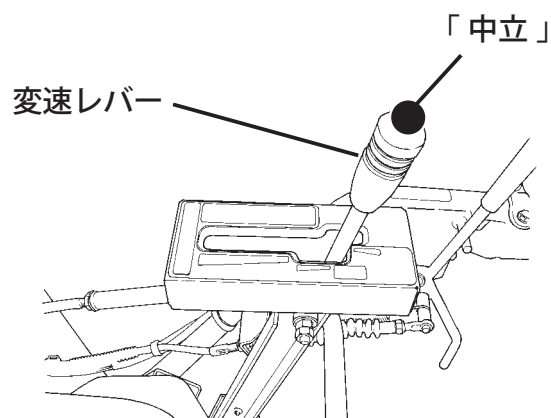
機械の回転部、可動部は、注意をおこたったり取扱いを誤ると大変危険です。除草作業にあたっては、安全のため次の要領で行ってください。

1. 発進の要領

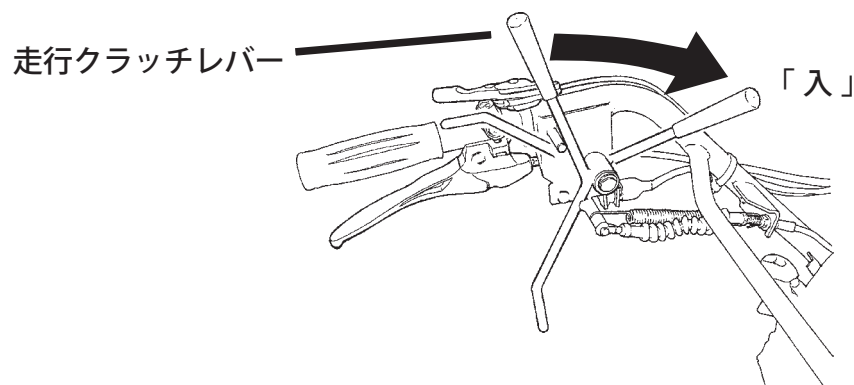
- 1) エンジンを始動します。(35ページ「7章 エンジンのかけかた」参照)
- 2) ハンドルを押し下げて作業部を地面から離します。



- 3) 変速レバーを「中立」位置にします。



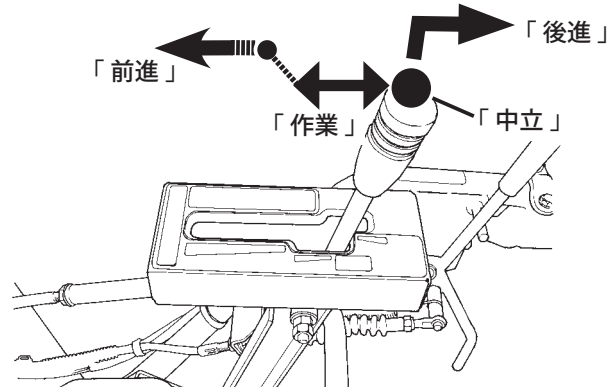
- 4) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。



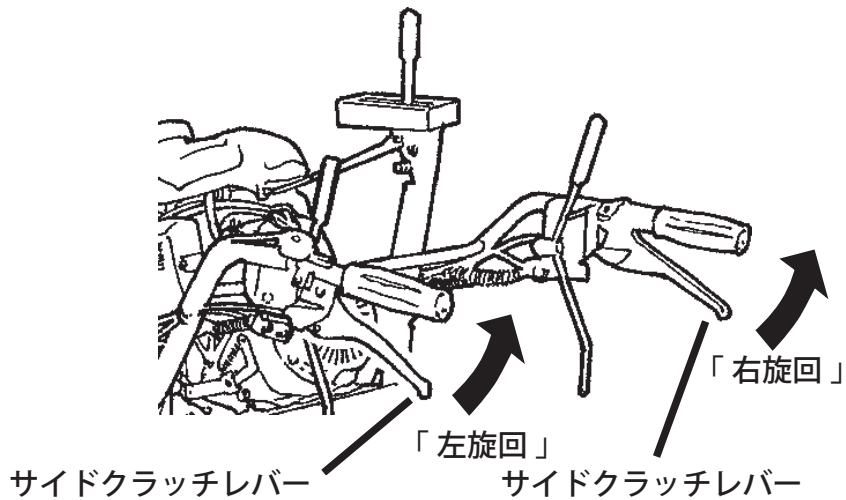
5) 変速レバーを任意の位置までゆっくりと動かします。

取扱いの注意

- ほ場内での除草機の後進はしないでください。
- 除草機を停止させたときは、必ず変速レバーを「中立」位置にしてください。



6) 右や左に進路を変えるときは進行方向のサイドクラッチレバーを握ってください。再びサイドクラッチレバーを離すと機体は直進します。



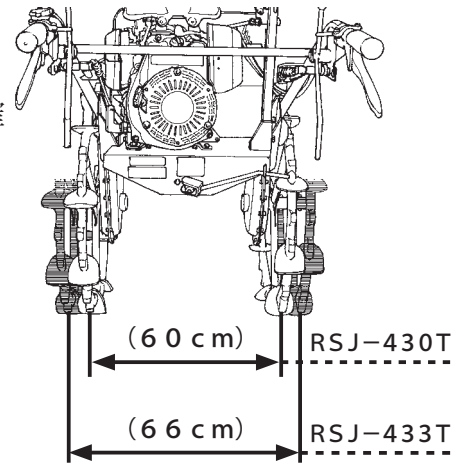
2. 作業の前に

お手持ちの田植え機によって、条間の長さが異なる場合があります。田植え機の条間と除草機の条間の長さが異なると作業を行うことができません。作業の前に条間の長さをもう一度ご確認ください。また、本機の輪距（トレッド）もご確認ください。

本製品は下記のとおり仕様を区別しています。

RSJ-430T・・・条間30cm4条植え仕様

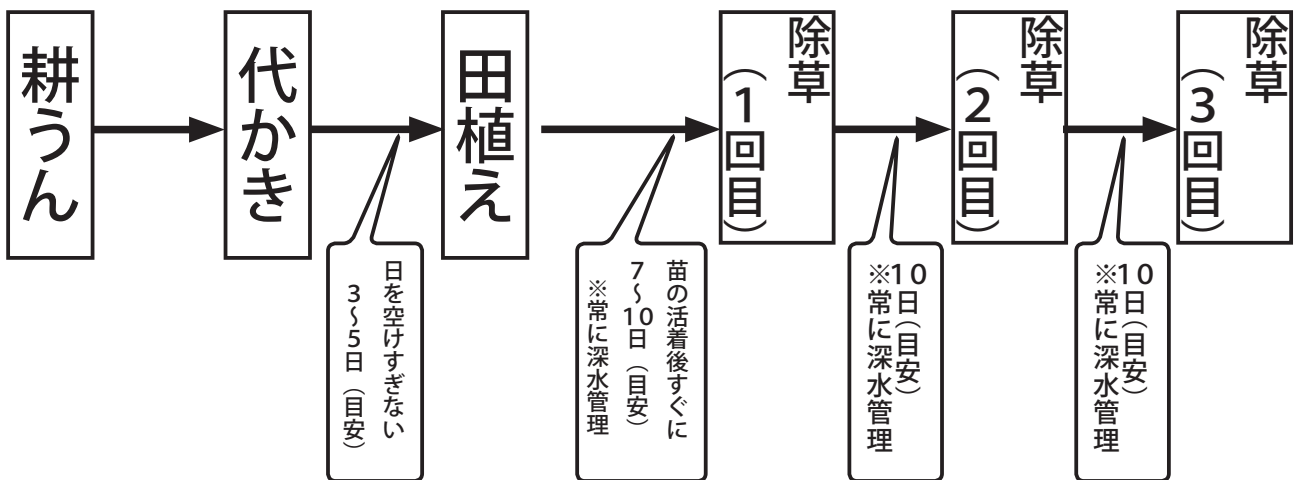
RSJ-433T・・・条間33cm4条植え仕様



参考

- ・本書にある事例は参考として、ご理解のうえ使用してください。
- ・水田の除草作業においては、稲作の方法、水田の状況、水管理、雑草の種類、天候等の状況に応じた作業が必要となります。初期除草作業は特に注意して作業してください。
- ・水田の雑草は早めの処理が大切です。処理作業の遅れには注意してください。雑草が生育するほど十分な除草が行われなくなります。

●除草作業の時期

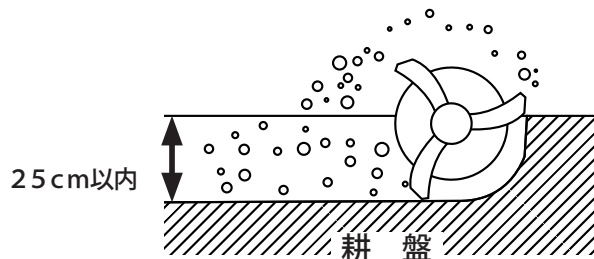


●水田除草のしかた

除草機の性能を発揮させるためには、耕うん時期からの準備が必要です。次のポイントをご理解のうえ、使用してください。

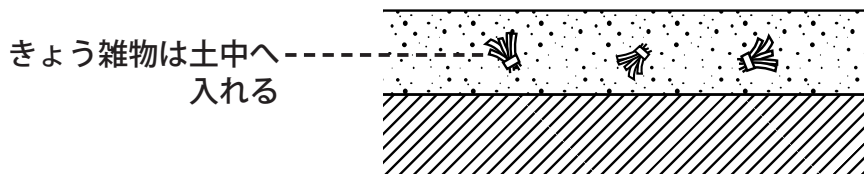
<耕うん時のポイント>

耕盤を安定させ、深くならないようにしてください。水田用除草機は田植え機の走行の跡を何度か走るため耕盤が深くなります。軟弱なほ場は特に深くなりますので、耕深を浅くしてください。耕盤から田面まで25cm以内になるようにしてください。25cm以上深くなると十分な除草作業ができません。



<代かき時のポイント>

きょう雑物は土中に入れ、表層に残さないようにしてください。スクリーによって飛ばされた時に苗を倒したり埋没させたりするおそれがあります。

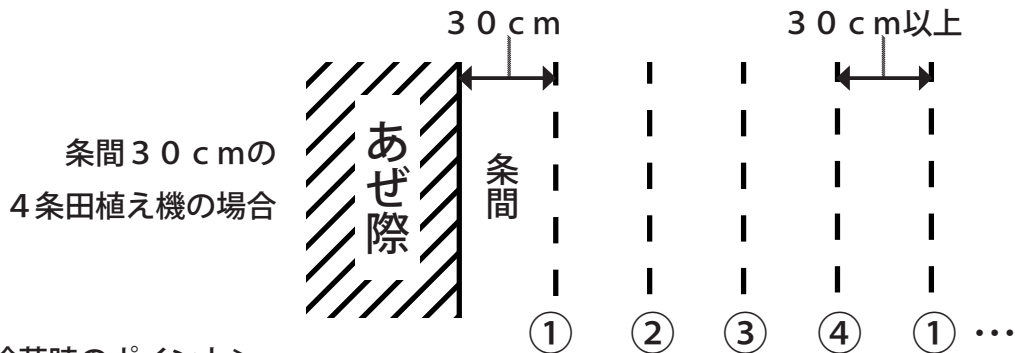


<田植え時のポイント>

代かき後はできるだけ日を空けずに田植えを行ってください。苗が活着する前に雑草が発芽してしまい、適期に除草を行うことができなくなります。

隣接条間やあぜ際は根付け条間以上を確保するようにしてください。(田植え機の条間が30cmの場合は30cm以上の隣接条間を空けてください。)狭くなるとカゴ車やフロートにより苗を倒したりするおそれがあります。

枕地など田植え機が回転した場所はよくならしてください。固まった土を表層に残すと除草作業や雑草処理過程に悪影響を及ぼします。



<除草時のポイント>

田植え後30～40日以内に2～3回行います。除草作業の時期はほ場の特長によって異なりますが、早めに除草作業を行ってください。発生した雑草を取るのではなく、雑草を発生させない管理を心がけてください。

減農薬栽培などで除草機と除草剤を併用する場合は、除草剤の散布時期や効果に応じて作業時期を調整してください。除草剤の効果が得られている期間内に除草機で作業を行うと除草剤の効果がなくなるおそれがあります。

1) 除草剤を使用しない場合

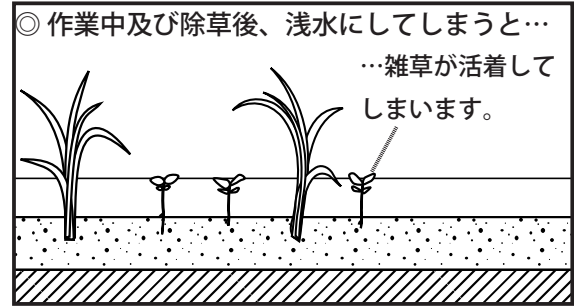
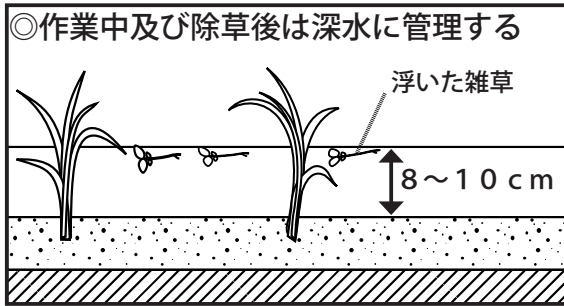
	初期	中期	後期
除草時期	苗が活着したらただちに。または田植え後7～10日。	移植後20日前後。または雑草が発生し始めたらただちに。	移植後20日前後。または雑草が発生し始めたらただちに。
水の深さ	8cm～10cm		
作業の概要	土と水を混ぜ合わせるように作業します。		

2) 除草剤と機械除草を併用する場合(除草剤の効果が見られなかった場合など)

	1回目	2回目
除草時期	雑草が発生し始めたらただちに。	移植後20日前後。または雑草が発生し始めたらただちに。
水の深さ	8cm～10cm	
作業の概要	土と水を混ぜ合わせるように作業します。	

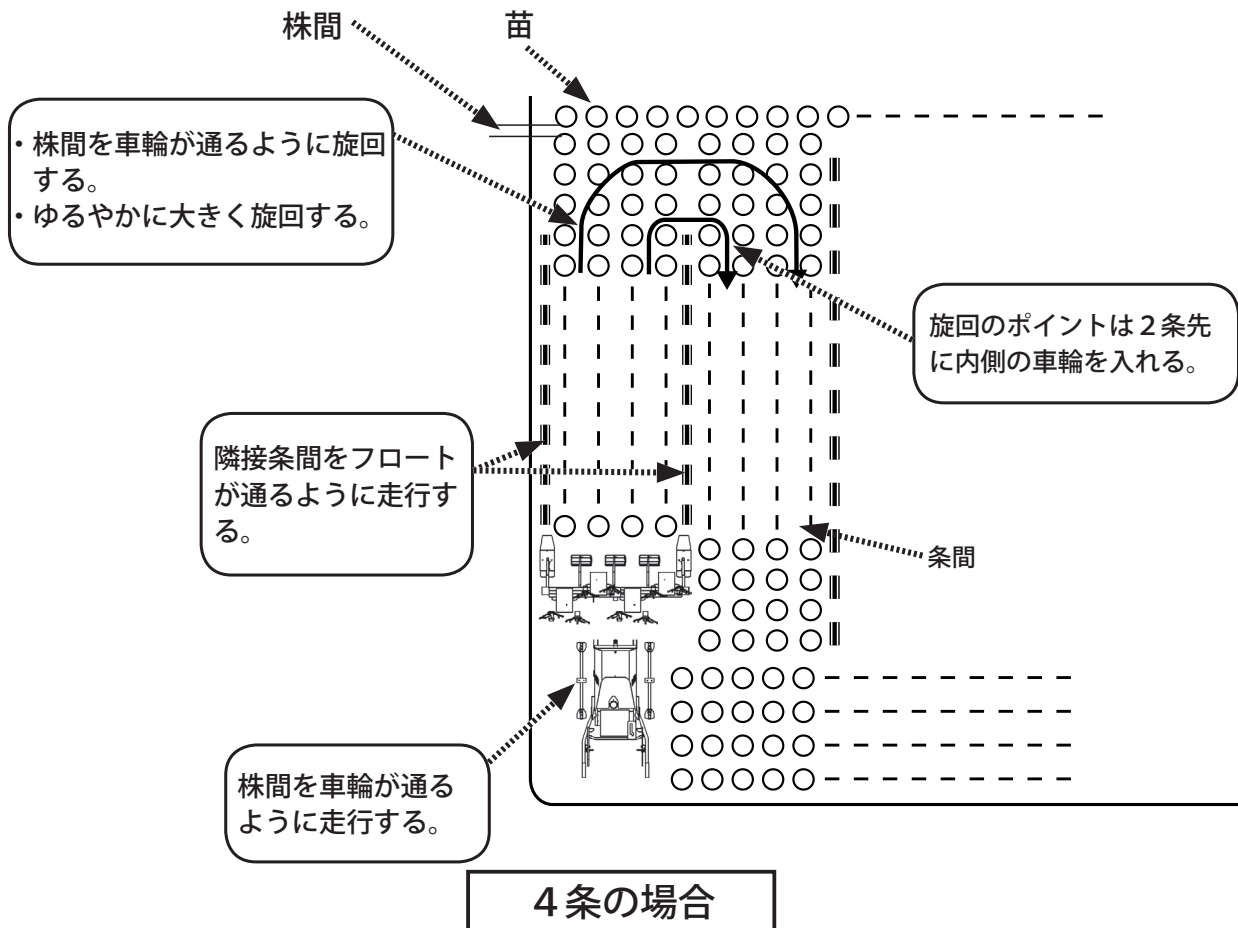
●水の管理について

除草作業中及び除草後水面の雑草が枯れるまでは、水の深さを8cmから10cmにする必要があります。浅水の状態で行ったり作業後すぐに落水すると、浮き上がった雑草が再び活着し、除草の効果が得られなくなります。



●ほ場の歩きかた

- ・条に沿って走行してください。
- ・除草作業以外の走行時の際は、スクリュウやフロートが苗にあたらない位置まで作業フレームを浮かせてください。
- ・ほ場への出入りや枕地での旋回等で条を横断する場合は、車輪で苗を埋没しないように株間を選んで走行することが大切です。
- ・旋回時は苗や土の掘り起こしを防止するためにサイドクラッチレバーを断続的に操作して急旋回しないようにしてください。



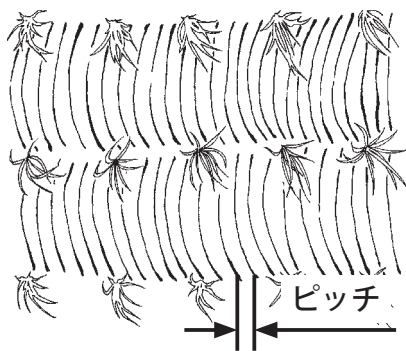
●調節のポイント

<エンジン回転数と車速の調節>

除草作業を行うと5本の爪が土の中に順次入り込むので、下図のように並列した曲線が描かれます。エンジンの回転数と車速の調節をすることで曲線のピッチを変えることができます。

エンジンの回転数を「H（高）」にするほど、車速を遅くするほどピッチを小さくすることができます。

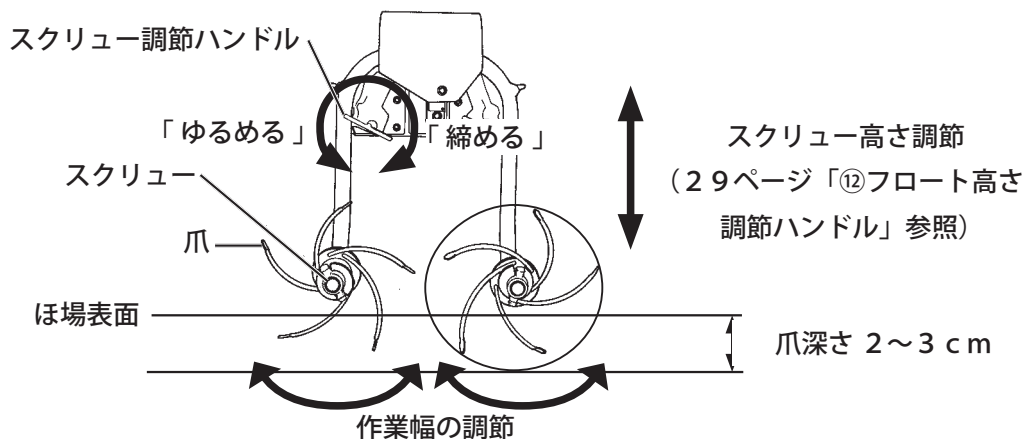
除草時期や雑草の種類、雑草の発生状態等に応じて調節してください。



<スクリー位置の調節>

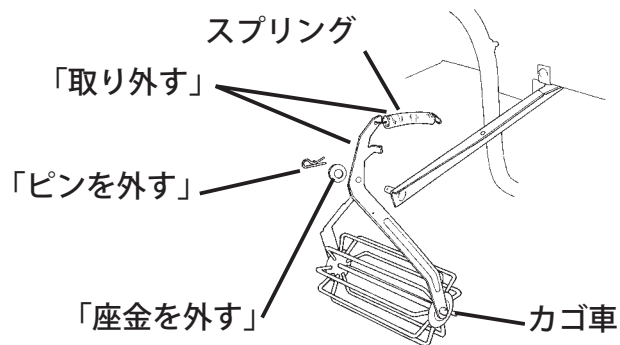
スクリー調節ハンドルをゆるめてスクリーの左右調節をすることで、除草処理範囲を変えることができます。また、条間が不均一になりやすい合わせ目でも調節できます。また、フロートの高さ調節を行うことで除草処理範囲を変えるだけでなく、爪が土に入り込む深さも変えることができます。

除草時期や雑草の種類、苗の生育状態等に応じて調節してください。



・カゴ車の使用について

カゴ車は、条間の茎の長い雑草を押し倒し、爪にかかりやすくするはたらきをします。草や土壌条件によって、カゴ車が藻や泥を押しおそれがあります。このような時はカゴ車を取り外して使用してください。カゴ車を外すときはピンを抜いてスプリングごと取り外してください。

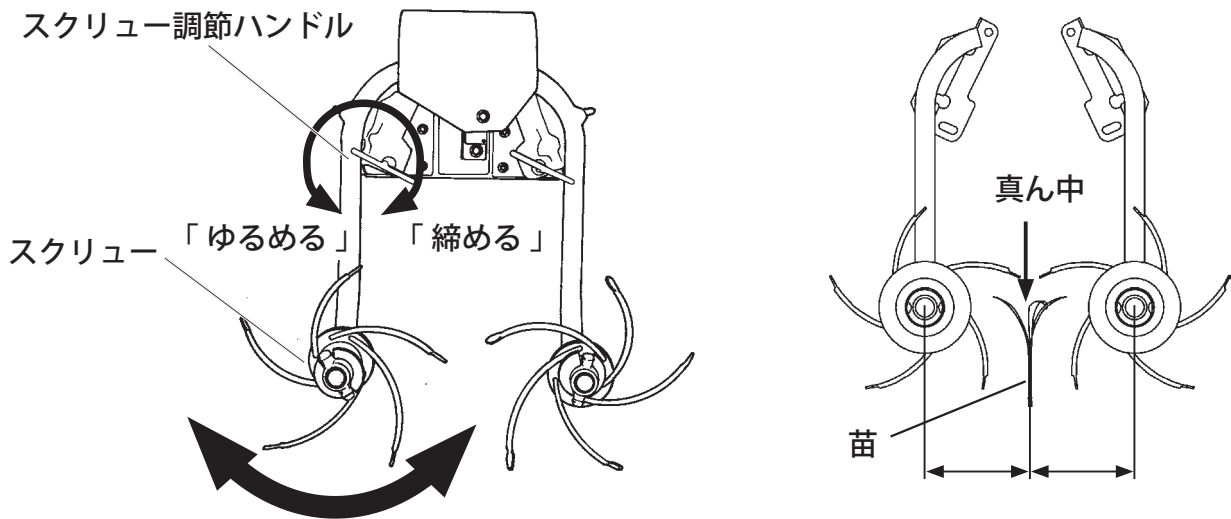


3. 除草作業の要領

- 1) スクリューの左右位置を調節します。スクリュー調節ハンドルをゆるめてからスクリューを任意の位置に調節します。調節後はハンドルを確実に締めて固定してください。

参考

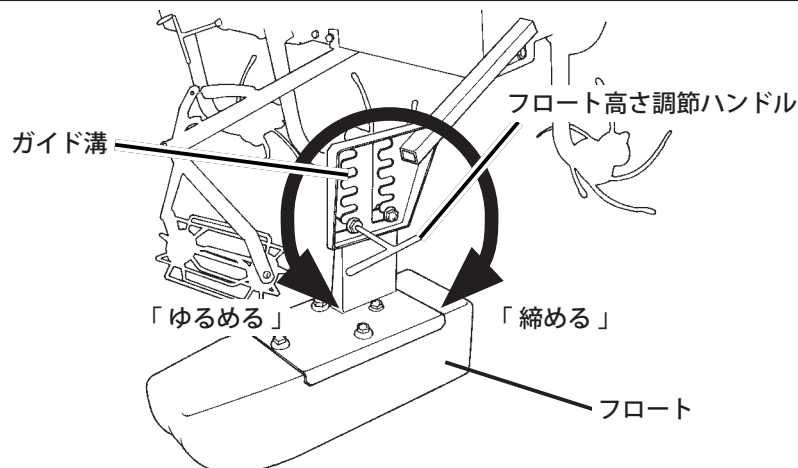
- 左右のスクリューの真ん中を苗が通り過ぎるように左右均等に調節します。
- 田植え後7日～10日の初期除草は苗とスクリューの間隔を大きくとり、状況に応じて少しずつ間隔を小さくしていきます。中期及び後期除草は苗の生育に応じて苗とスクリューの間隔を調節してください。



- 2) スクリューの高さを調節します。フロート高さ調節ハンドルをゆるめてからフロートを任意のガイド溝に移動します。調節後はハンドルを確実に締めて固定してください。

参考

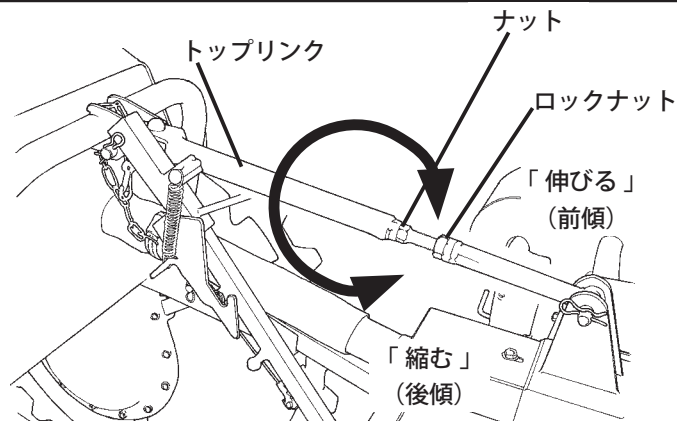
- すべてのスクリューの先が同じ深さで土の中に切り込むように調節します。(44ページ「スクリュー位置の調節」参照)
- 初期除草から後期除草へ除草作業を繰り返すと条間に溝ができてきますので、溝の深さに応じてフロートの位置を上げてスクリューの位置を下げてください。
- 除草作業をするときはガイド溝に確実に固定して使用してください。



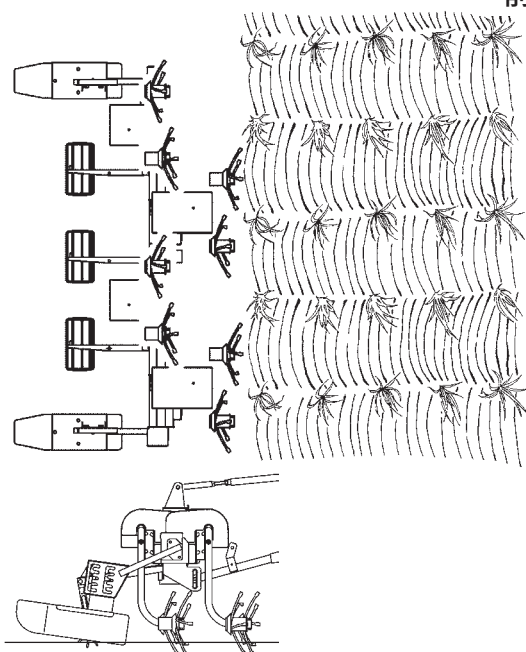
- 3) 作業部の前傾及び後傾を調整します。調整はトップリンクを伸縮して行います。トップリンクを伸ばすと作業フレームが前傾し、縮めると後傾します。
1. トップリンクのロックナットをゆるめます。
 2. トップリンクのナット部分を回転させ調整します。
 3. ロックナットを締めて固定します。

参考

- ・前後のスクリューの高さが水平になるように調整することが大切です。作業部が前傾になると後側のスクリューが浮き上がり、後傾になると前側のスクリューが浮き上がります。スクリューが浮き上がると十分な除草作業ができなくなります。
- ・シーズンのはじめに調整してください。
- ・除草の状況に応じて調整をしてください。

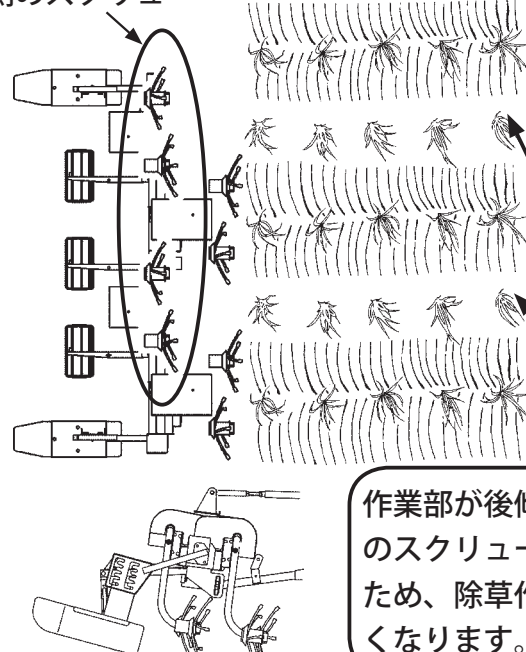


作業部が水平の場合



作業部が後傾の場合

前側のスクリュー

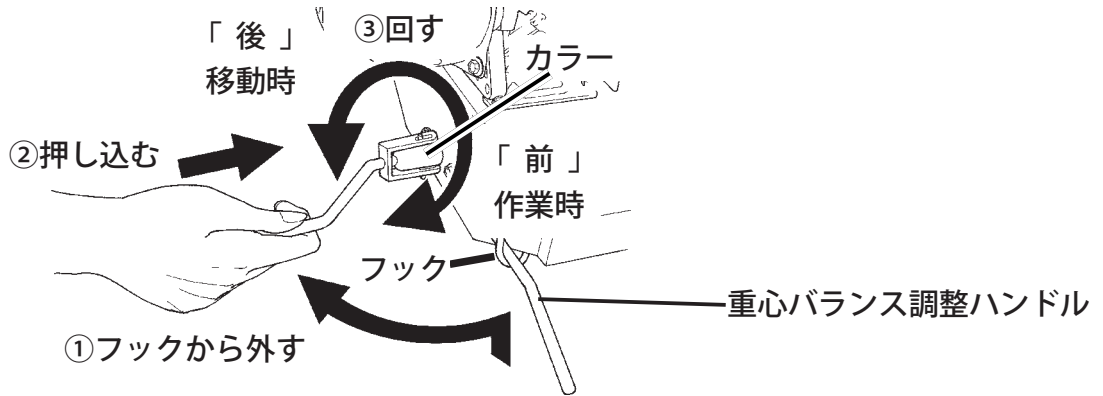


作業部が後傾になると前側のスクリューが浮き上がるため、除草作業範囲が小さくなります。

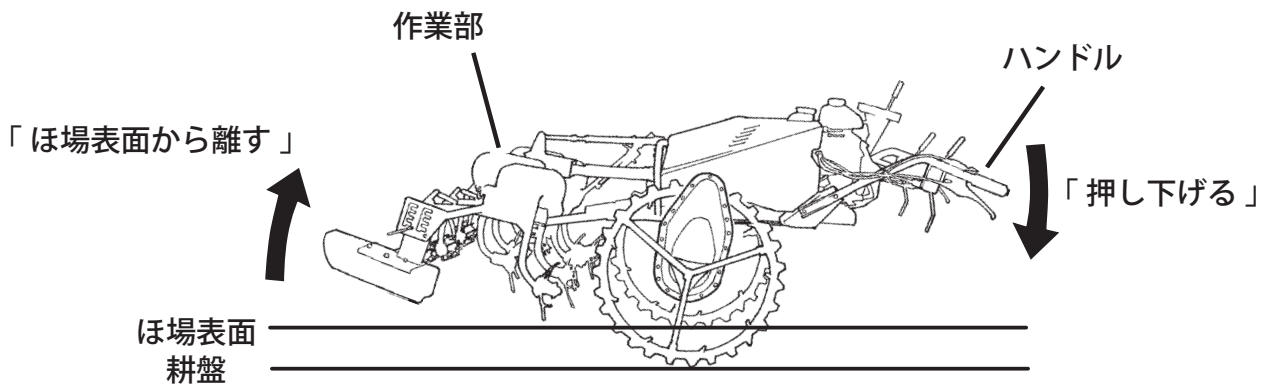
4) 重心バランス調整ハンドルを「前 作業時」側に回して機体の重心を調整します。

参考

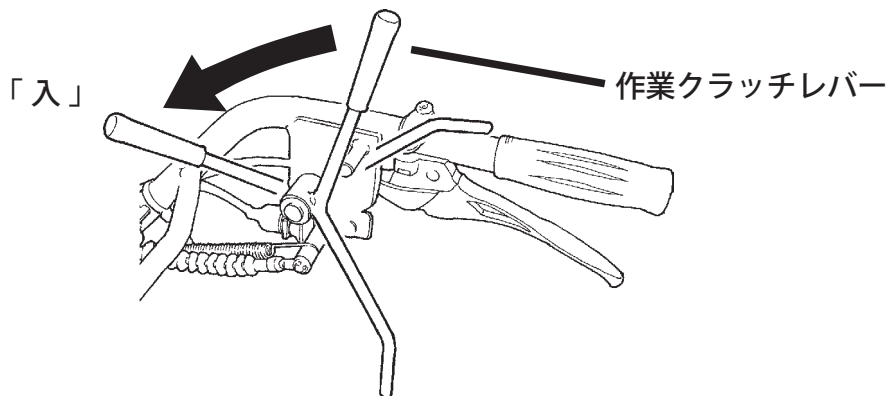
- 重心バランスを「前 作業時」側にすると作業部の持ち上がりを抑制します。
- 調整後はハンドルを所定のフックにかけてください。



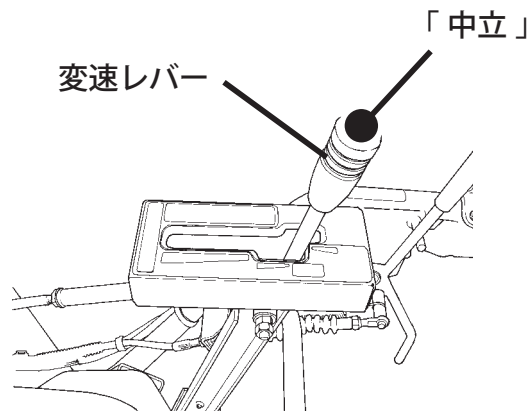
5) ハンドルを押し下げて作業部を地面から離します。



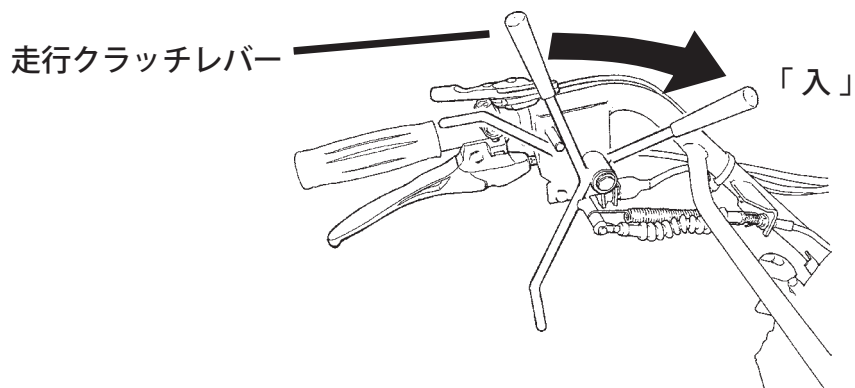
6) 5) の状態のまま作業クラッチレバーを「入」位置にします。



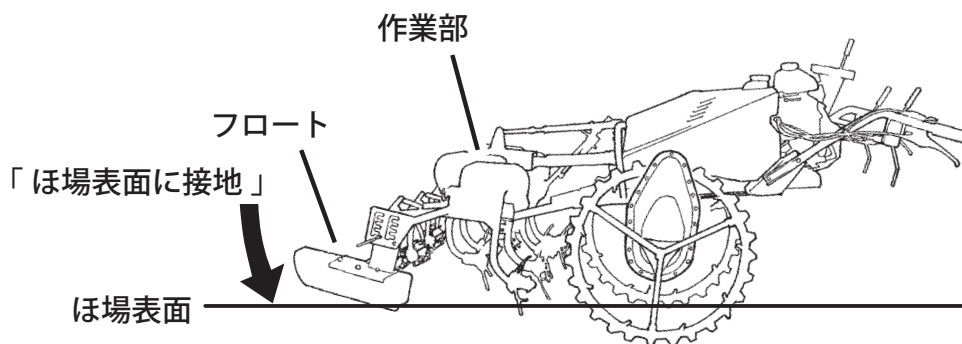
7) 5) の状態のまま変速レバーを「中立」位置にします。



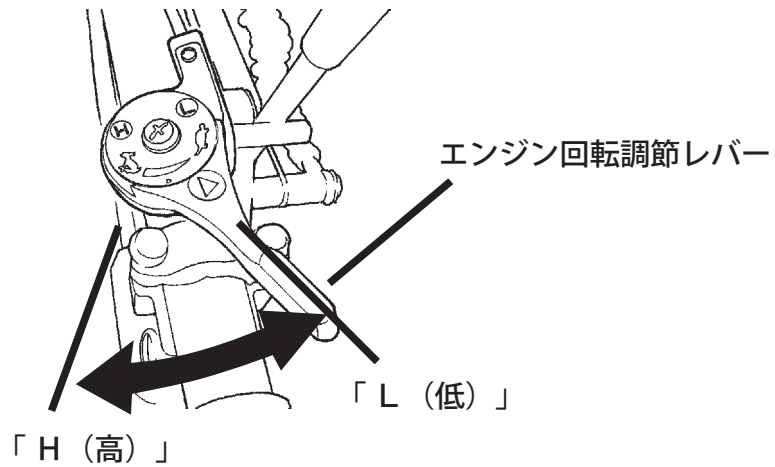
8) 5) の状態のまま走行クラッチレバーを「入」位置にします。



9) フロートをほ場表面に接地します。



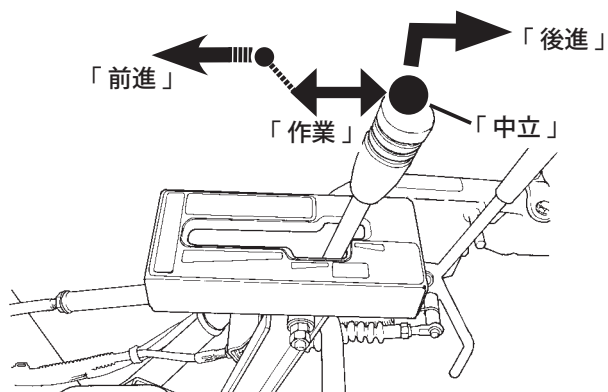
- 10) エンジン回転をほ場の状態に応じて調節します。通常は「H (高)」側で使用してください。
(44ページ「●調節のポイント」を参照)



- 11) 「中立」位置から「作業」位置までの間で、変速レバーを任意の位置までゆっくりと動かします。

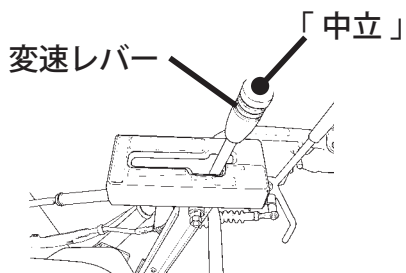
参考

- ほ場内での除草機の後進はしないでください。
- 除草機を停止させたときは、必ず変速レバーを「中立」位置にしてください。

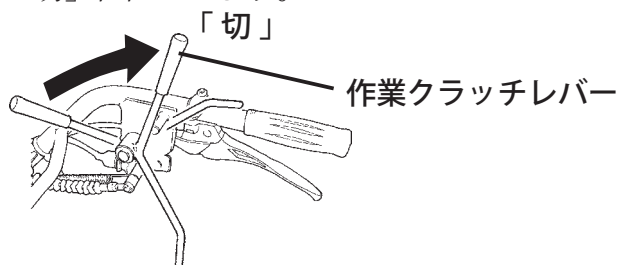


4. ほ場内の旋回の要領

1) 変速レバーを「中立」位置にして除草機を止めます。



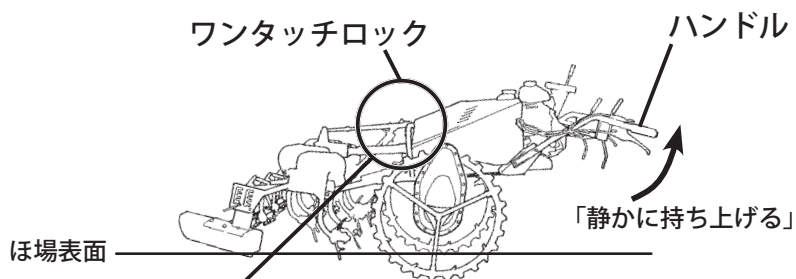
2) 作業クラッチレバーを「切」位置にします。



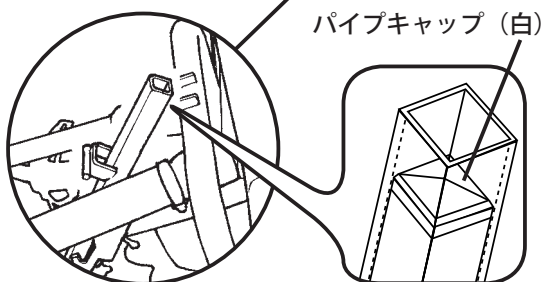
3) 作業部を「ロック時の高さ」位置に固定します。パイプキャップ（白）がロック位置になるまでハンドルを静かに持ち上げます。そのままハンドルを下ろすと固定されます。

参考

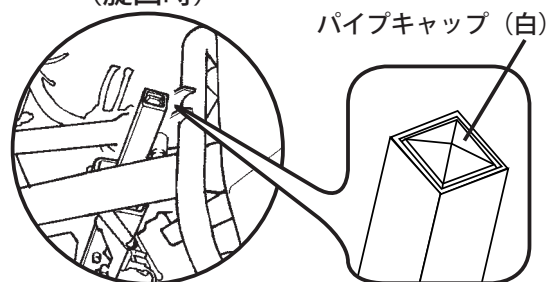
- 急激にハンドルを持ち上げたり、最後までハンドルを持ち上げたりすると固定できません。
- ワンタッチロック操作をするときは、作業クラッチレバーを「切」位置にしてスクリューの回転が停止していることを確認してください。
- ワンタッチロックを使用すると、ハンドルを押し下げる際にハンドルが高い位置にあるのでらかな姿勢で旋回ができます。



通常作業時の高さ

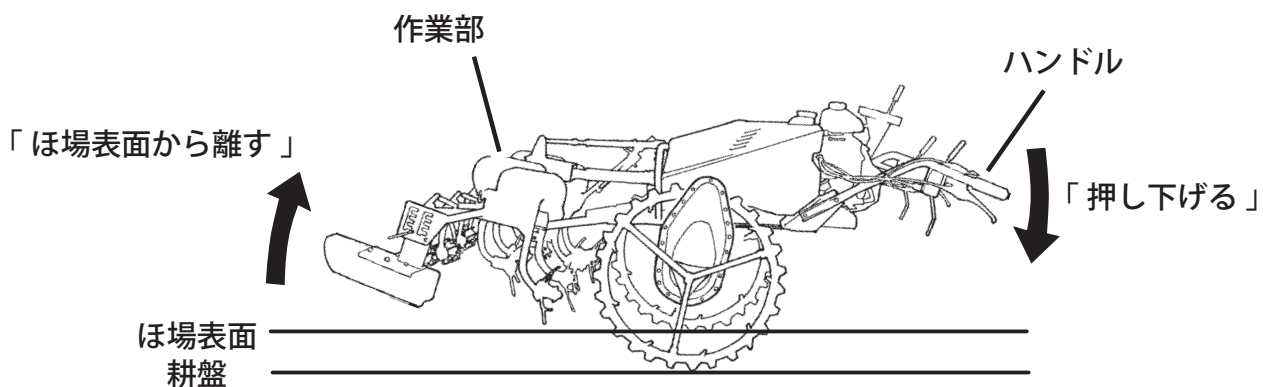


ロック時の高さ
(旋回時)



8章 除草作業のしかた

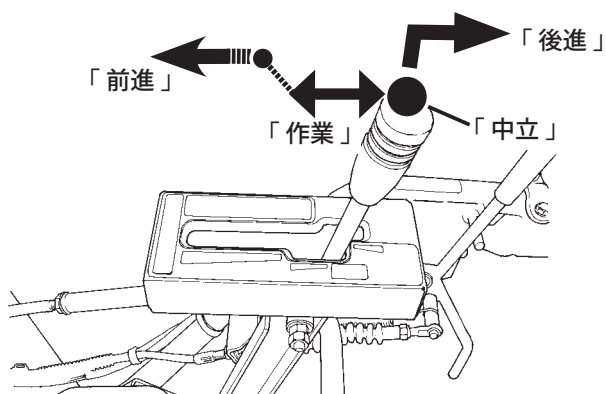
4) ハンドルを押し下げて作業部をほ場表面から離します。



5) 変速レバーを任意の位置までゆっくりと動かします。

参考

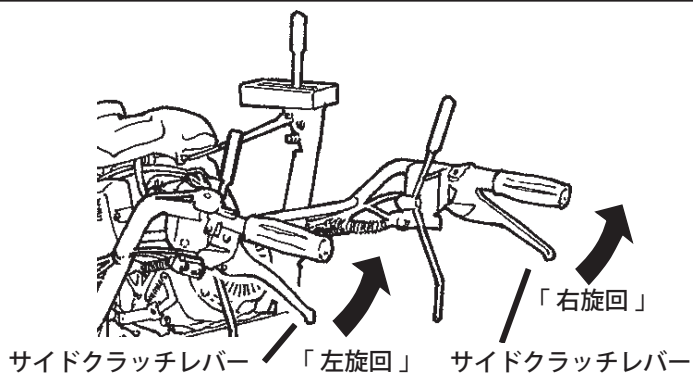
- ・ほ場内での除草機の後進はしないでください。
- ・除草機を停止させたときは、必ず変速レバーを「中立」位置にしてください。



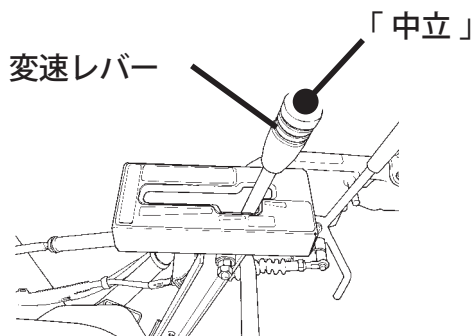
6) 旋回方向のサイドクラッチレバーを握ってください。再びサイドクラッチレバーを離すと機体は直進します。

参考

旋回の際は、サイドクラッチレバーを断続的に操作するとほ場の掘り起こしを防ぐことができます。



7) 旋回が終了したら、変速レバーを「中立」位置にして除草機を止めます。



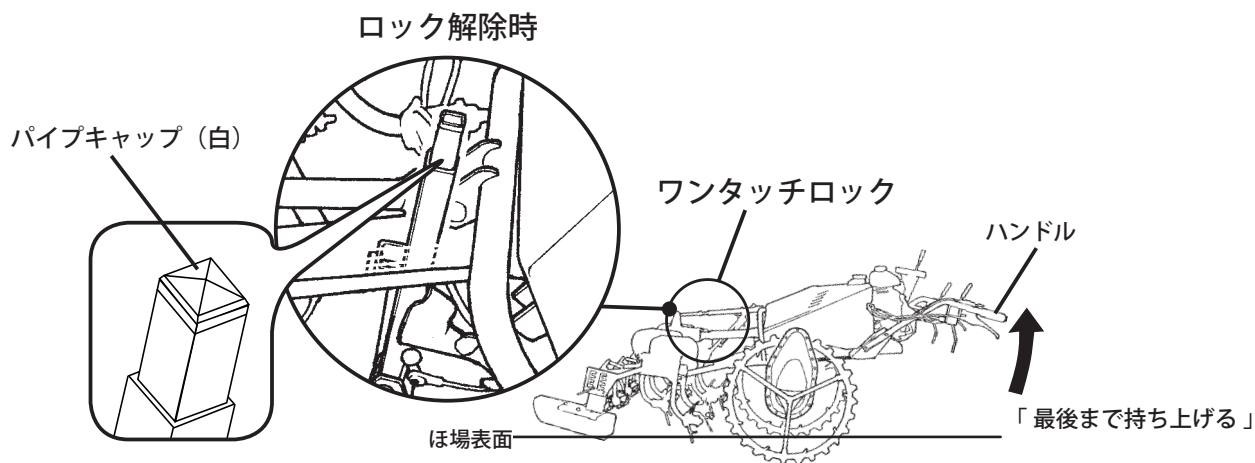
8) ワンタッチロックを解除します。3) のロックする時と同じ要領で、ハンドルを動かなくなるまで持ち上げます。そのままハンドルを降ろすとワンタッチロックが解除されロックする前の状態になります。

取扱いの注意

ロックしたままで、作業クラッチレバーを「入」位置にしないでください。

参考

・除草作業の際は必ずワンタッチロックを解除して行ってください。ロックしたままで作業を行うと十分な除草作業ができません。パイプキャップが通常作業時の位置にあること（51ページ参照）を確認してから、作業してください。

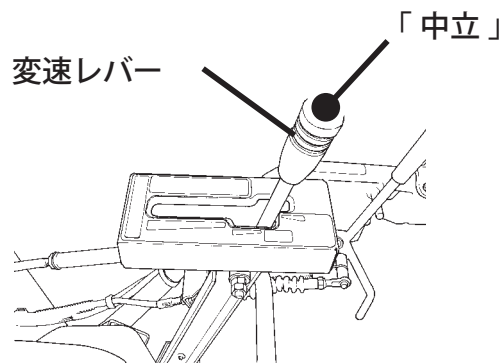


9) 旋回が終了したら、（46ページ「3. 除草作業の要領」）に従って作業を進めてください。

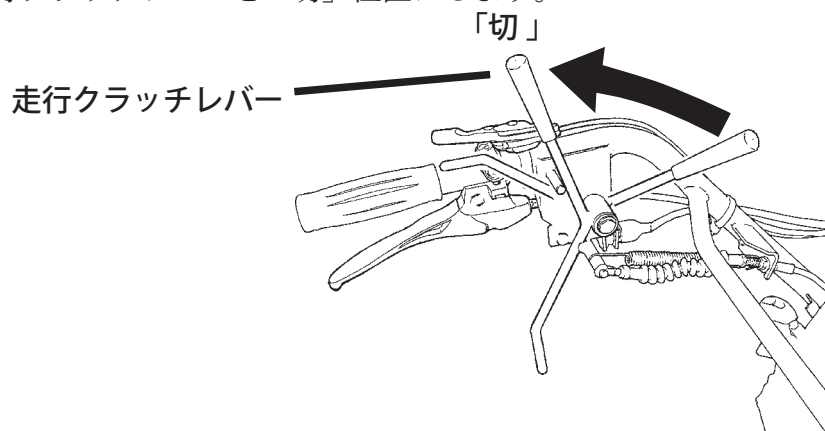
9章 除草機の止めかた

1. 停車のしかた

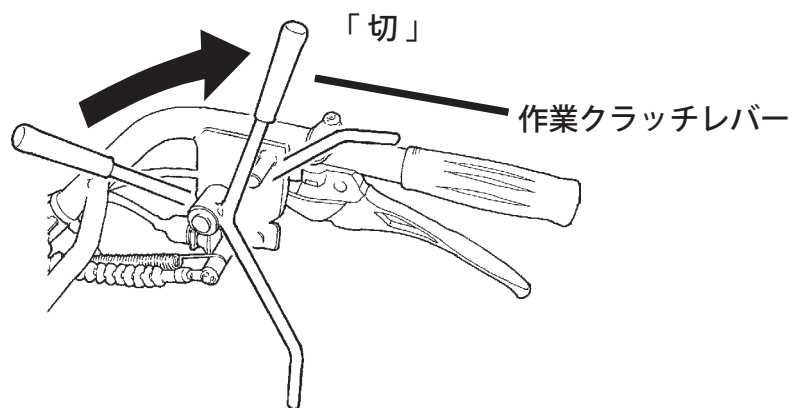
1) 変速レバーを「中立」位置にします。



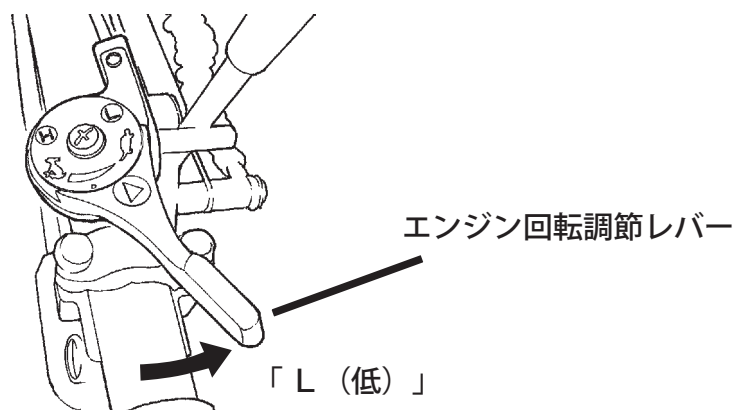
2) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。



3) 作業クラッチレバーを「切」位置にします。

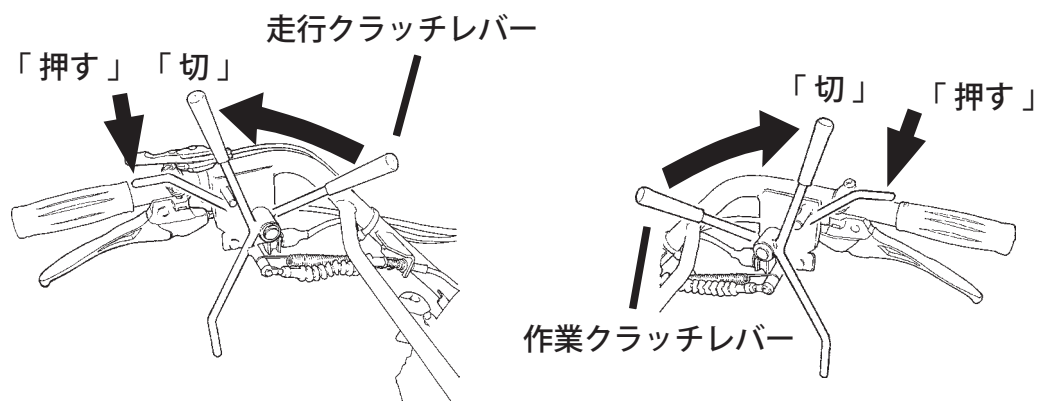


4) エンジン回転調節レバーを「L (低)」側にします。

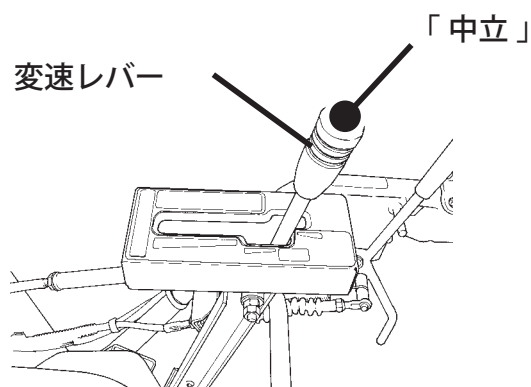


2. 緊急時の停止のしかたー1

1) 左親指で走行クラッチレバーを、右親指で作業クラッチレバーをそれぞれ押します。

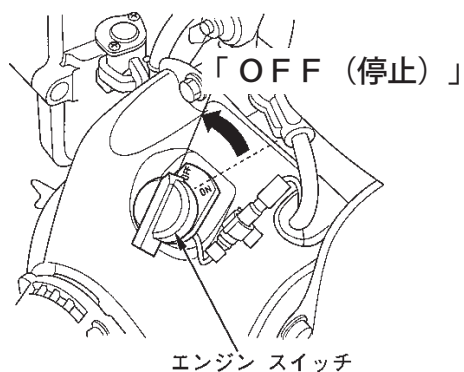


2) 変速レバーを「中立」位置にします。



緊急時の停止のしかたー2

1) エンジンスイッチを「OFF (停止)」位置にします。



2) エンジンが完全に停止したことを確認してから、操作レバーを下記の位置にします。

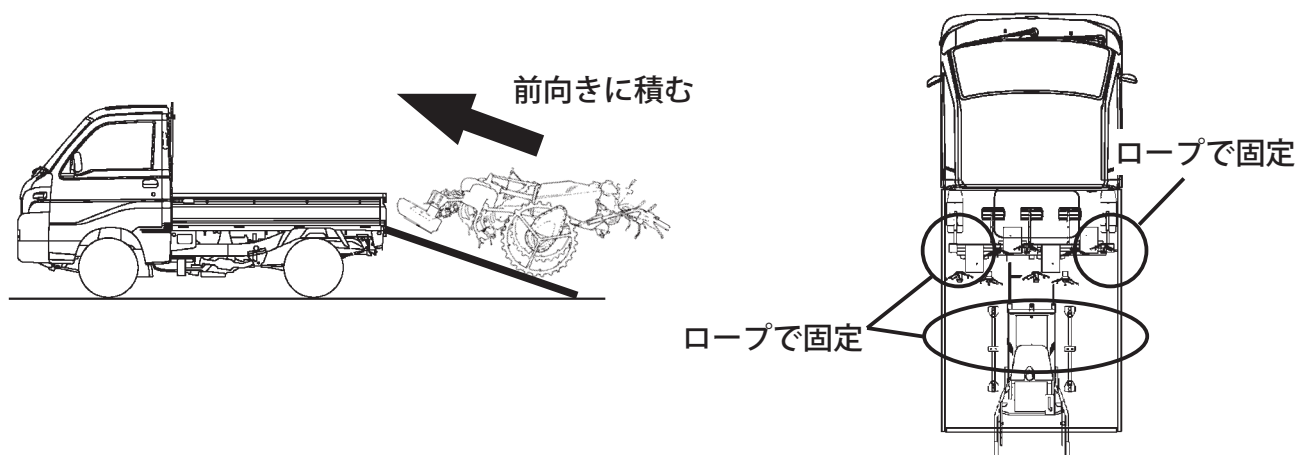
- ・変速レバー 「中立」位置
- ・走行クラッチレバー 「切」位置
- ・作業クラッチレバー 「切」位置
- ・エンジン回転調節レバー 「L (低)」位置

10章 車への積載のしかた

- トラックへの積み込み・積み降ろし作業の注意項目については「3. 輸送時の注意項目」(8～10ページ)を参照し、安全に注意し慎重に行ってください。
- 各操作レバーの操作方法については「5章 各操作部のはたらき」(23～29ページ)を参照してください。

1. 積み込みのしかた

- 1) 重心バランス調整ハンドルを「後 移動時」側に回します。
- 2) エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを「L (低)」位置にします。
- 3) ハンドルを押し下げて作業フレームを地面から離します。
- 4) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。
- 5) 変速レバーをゆっくり「作業」側に動かします。
- 6) ハンドルをしっかりとってアユミ板をまっすぐ渡り、積み込みます。
- 7) 積み込みが完了したら、フロートを荷台に接地します。
- 8) 走行クラッチレバーを「切」位置、変速レバーを「中立」位置にします。
- 9) 車輪や作業フレーム等をロープで確実に縛り固定します。



2. 降ろしかた

- 1) エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを「L (低)」位置にします。
- 2) ハンドルを押し下げて作業フレームを荷台から離します。
- 3) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。
- 4) 変速レバーをゆっくり「後進」側に動かします。
- 5) ハンドルをしっかりとってアユミ板をまっすぐ渡り、降ろします。
- 6) 積み降ろしが完了したら、フロートを地面に接地します。
- 7) 走行クラッチレバーを「切」位置、変速レバーを「中立」位置にします。

取扱いの注意

- ・RSJ-433Tは軽トラックに積み込むことができません。
- ・積み込みの際にワンタッチロックを使用した時はロックを解除してください。
- ・本機を積み込みした後にトラックの荷台にアユミ板を積み込むときは、アユミ板と爪が干渉しないようにしてください。
- ・ロープで固定のときは、あまり強く締めないでください。

1 1 章 定期点検

1. 定期点検

この取扱説明書に記載されている、お客様ご自身で行っていただける点検・整備項目の他に、お買い上げいただいた販売店で定期的実施していただく項目があります。

機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズン毎に整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

2. 定期点検一覧表

点検・調整箇所	規定量・サイズ	内容	50 時間毎	100 時間毎	200 時間毎	2年毎	参照 ページ
点火プラグ	CR5HSB (NGK) U16FSR-UB (DENSO)	点検・清掃・調整・交換 (点検時異常があれば清掃・調整)		点検	交換		61
エンジンオイル	0.4リットル	4サイクル ガソリンエンジンオイル SAE 10W-30 SE級以上 交換		○			58
無段変速機オイル	—	4サイクル ガソリンエンジンオイル SAE 10W-30 SE級以上 点検 (点検時不足であれば補充)			○		32
エアクリーナ (空気清浄器)	—	ろ過部の点検・清掃・交換 (点検時汚れていれば清掃・交換)	点検		交換		59
*スクリーシャフト	—	点検・交換 (点検時損傷があれば交換)		○			点検33 交換62
*スクリー	—	点検・交換 (点検時損傷があれば交換)		○			点検33 交換62
*エンジンベルト	レッドSIIベルト SA24	ベルトの摩耗状況点検・調整			○		—
*走行ベルト	レッドSIIベルト SA23	ベルトの摩耗状況点検・調整			○		—
*作業ベルト	コグベルト RCLA29	ベルトの摩耗状況点検・調整			○		—
*サイドクラッチベルト	レッドSIIベルト SB33	ベルトの摩耗状況点検・調整			○		—
*作業駆動チェン	チェン (1/2 × 1/8 × 36 RB)	チェンの張り、傷の状況点検 (点検時異常があれば交換)			○		65
*走行クラッチワイヤー	—	動作の点検・調整			○		—
*作業クラッチワイヤー	—	動作の点検・調整			○		—
*サイドクラッチワイヤー	—	動作の点検・調整			○		—
*スロットルワイヤー	—	動作の点検・調整			○		—
*燃料チューブ	—	点検 (点検時損傷があれば交換)				○	—
*燃料タンク、燃料ろ過網	—	清掃			○		—
*始動けん制装置 (走行クラッチレバー・ 作業クラッチレバー)	—	動作点検・調整 (点検時異常があれば調整)			○		—

*の項目は適切な工具と整備技術を必要としますのでお買い上げ販売店にお申し付けください。

取扱いの注意

定期点検を受けられてもベルトは、お客様のご使用状況によりベルト寿命が異なります。シーズン中でも異常を感じたときは、販売店での整備を受けてください。

12章 点検・整備のしかた

1. エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

注意

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

<交換時期>

初回 20時間使用後以後、年1回 除草時期のはじめまたは100時間運転毎。

<使用オイル、容量>

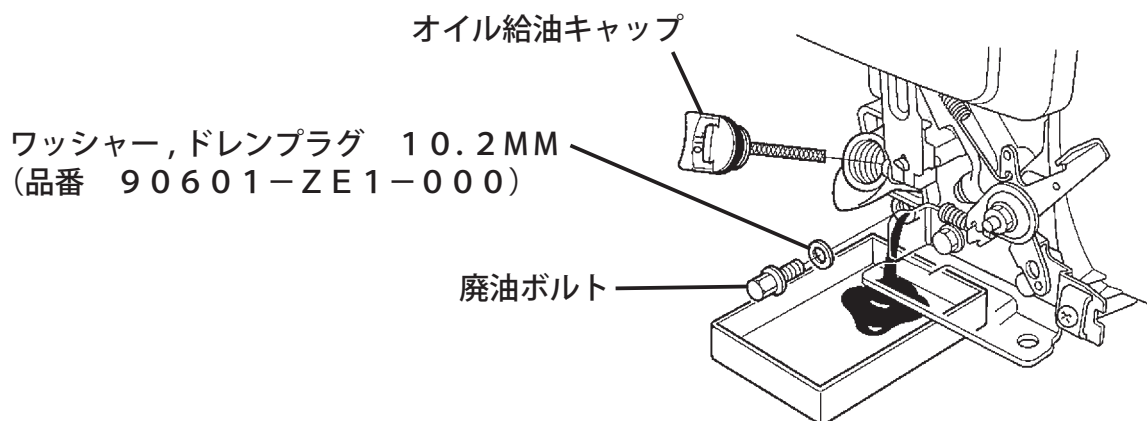
使用オイル・・・4サイクル ガソリンエンジンオイル

SAE 10W-30 SE級以上

オイル容量・・・0.4リットル

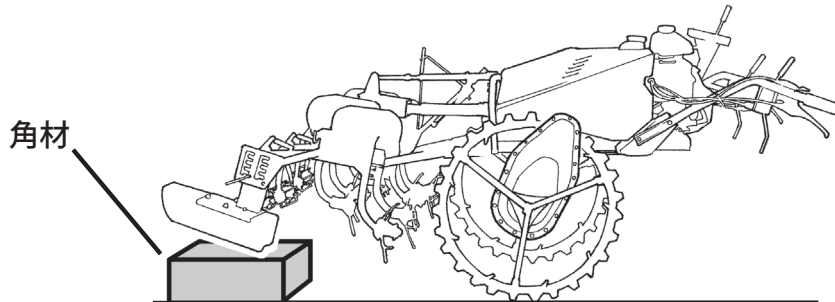
<交換のしかた>

1. エンジンを水平にします。
2. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
3. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいワッシャー・ドレンプラグ10.2MMを取り付け排油ボルトを確実に締め付けます。
4. 注入口の口元まで新しいエンジンオイルを注入します。
5. 注入後オイル給油キャップをゆるまないように確実に締め付けます。



参考

エンジンを水平にしないと規定容量のオイルを注入することができません。フロートと地面の間に角材等をおいてエンジンを水平にしてください。



取扱いの注意

- ・オイル給油キャップは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- ・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- ・交換後のエンジンオイル等はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上処理してください。

※ 廃棄物処理法、水質汚濁防止法

2. エア クリーナ（空気清浄器）の清掃

エア クリーナが目づまりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃、交換をしましょう。



警告

- ・洗剤は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- ・清掃は換気の良い場所で行ってください。

<清掃時期>

50時間運転毎または3ヶ月毎

(ほこりの多い場所で使用した場合は、10時間毎又は1日1回清掃してください。)

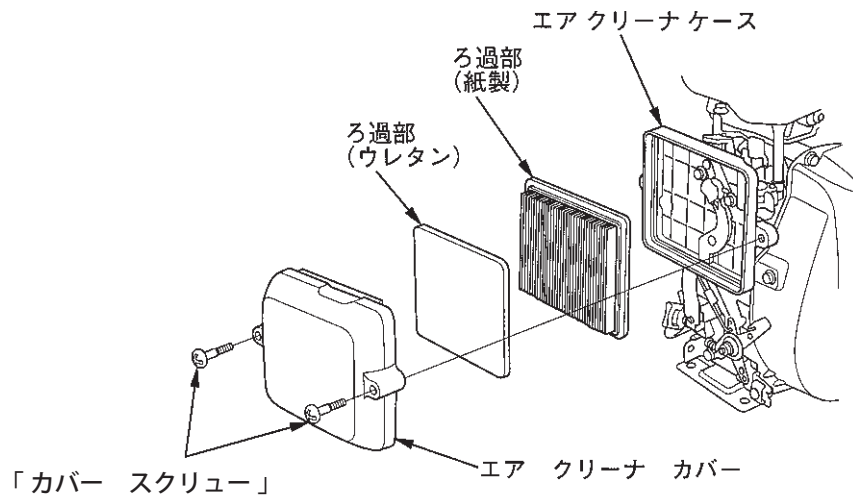
<交換時期>

200時間運転毎または1年毎

ろ過部（紙製）品番・・・17211-ZL8-023
ろ過部（ウレタン）品番・・・17218-Z0D-000

<清掃のしかた>

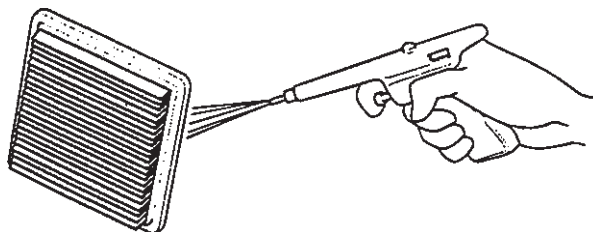
1. エア クリーナ カバーを取り外し、ろ過部(ウレタン、紙製)を取り外します。エア クリーナ カバーの取り外しは、2つある「カバー スクリュー」を外して行います。



2. ろ過部 (ウレタン) を洗い油又は水で薄めた中性洗剤ですすぐでよく乾かします。



3. ろ過部 (紙製) の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。ブラシなどで汚れを落とさないでください。ろ過部が破れたり、汚れが紙の繊維の中に入り込むおそれがあります。



4. ろ過部、エア クリーナ カバーを取り付けます。

取扱いの注意

エア クリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。

3. 点火プラグの点検、清掃

電極が汚れていたりプラグすきまが不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

! 注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

<点検・清掃時期>

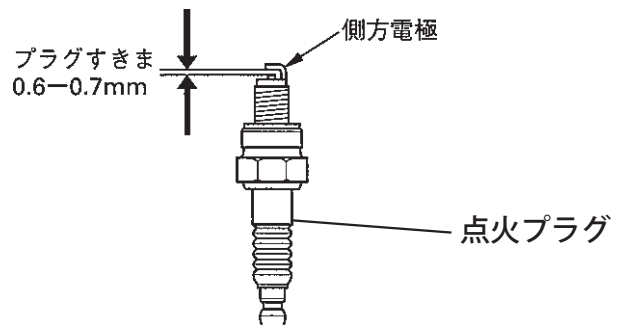
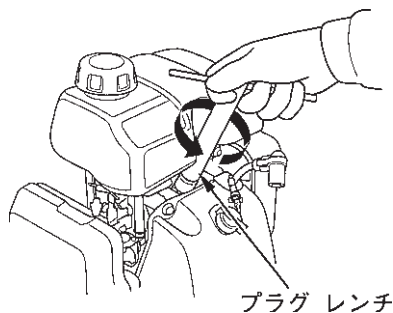
除草時期はじめまたは100時間運転毎

<交換時期>

除草時期はじめまたは200時間運転毎

<清掃のしかた>

1. 点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取り外します。
2. 汚れている場合はワイヤブラシ等で側方電極部を清掃してください。



<点検・調整のしかた>

1. 側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。

プラグすきま：0.6～0.7mm

2. 取り付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチ、プラグレンチハンドルで確実に締め付けます。プラグキャップを確実に取り付けます。

<指定プラグ>

CR5HSB (NGK) または U16FSR-UB (DENSO)
品番・・・98056-55777 または 98056-55757

取扱いの注意

- ・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取り付けは、ねじ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付けてください。
- ・点検調整後はプラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

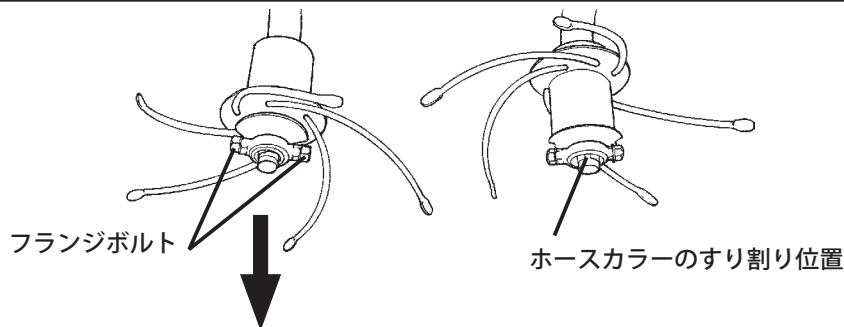
4. スクリューの交換

スクリューの品番は70ページに記載

- 1) 2ヶ所のフランジボルトをゆるめます。
- 2) 矢印方向にスクリューを引くと外れます。
- 3) スクリューを外した後は、泥や雑草などを取り除いてください。
- 4) 外したスクリューから2個のフランジボルトを外して新しいスクリューに付け替えます。
- 5) 新しいスクリューを組付けます。
- 6) フランジボルトの締め付け位置を外したスクリューの締め付け位置にあわせてフランジボルトを締め付けます。2ヶ所のフランジボルトを均等に締め付けてください。

取扱いの注意

- ・フランジボルトの締めすぎに注意してください。締めすぎるとスクリューシャフトを破損するおそれがあります。
- ・フランジボルトを締め付ける際は、ホースカラーのすり割りの位置にボルトの先端がかからないように組付けてください。

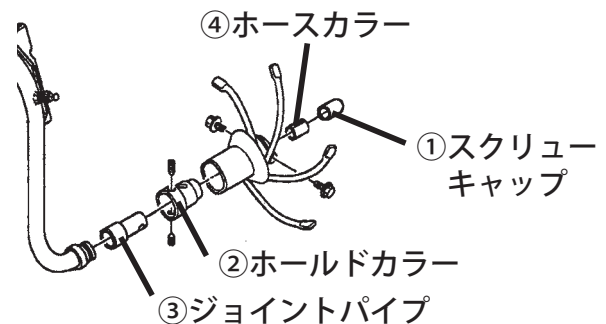


5. スクリューシャフトの交換

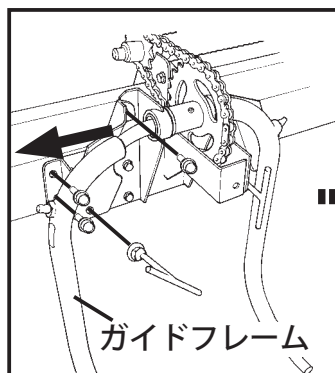
<スクリューシャフトの外しかた>

スクリューシャフト
品番・・・34800-P04-007

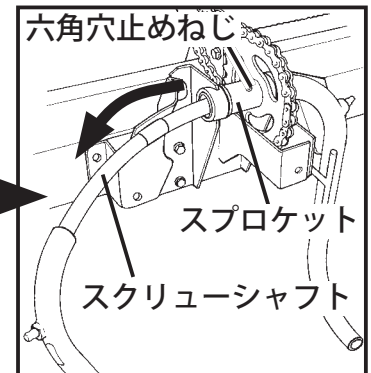
- 1) チェンカバーを外します。(64ページ参照)
- 2) スクリュー及びスクリュー内部の部品を外します。スクリュー内部の部品は、スクリューキャップ、ホールドカラー、ジョイントパイプ、ホースカラー の順に外します。



- 3) 片側のガイドフレームを外します。(作業しにくいときは両側を外しても作業できます。)



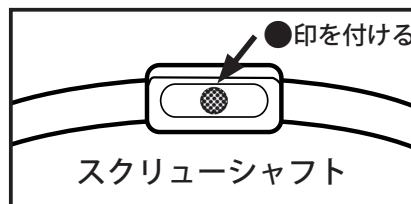
- 4) スプロケットの六角穴止めねじを外します。



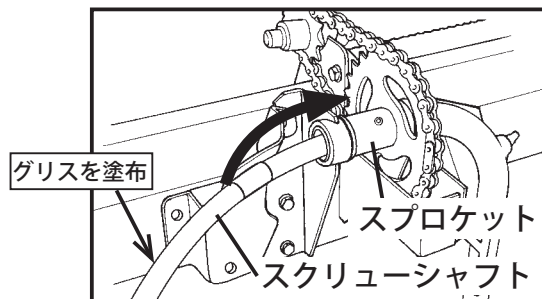
- 5) スクリューシャフトを引抜きます。

<スクリーシャフトの組付けかた>

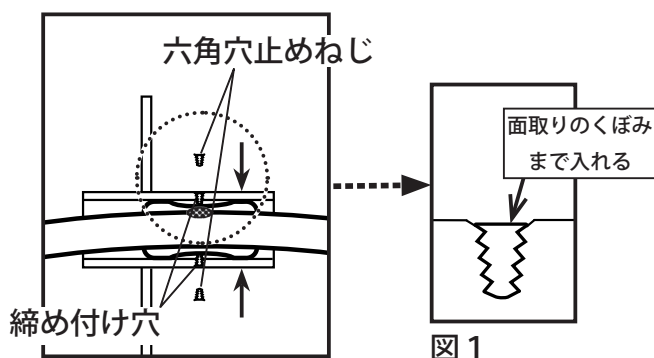
1) スクリーシャフトにある金具のくぼみ中央部分に印をつけます。



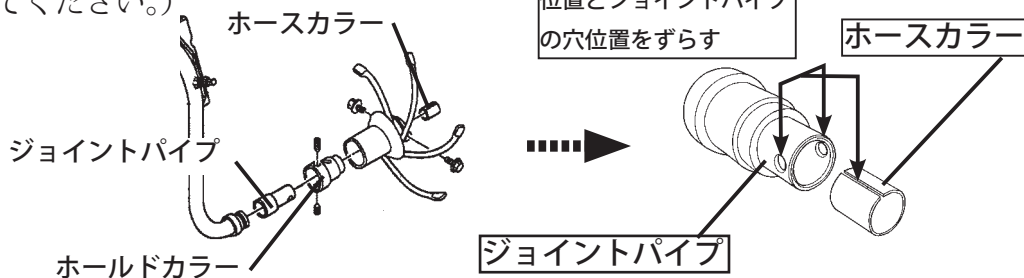
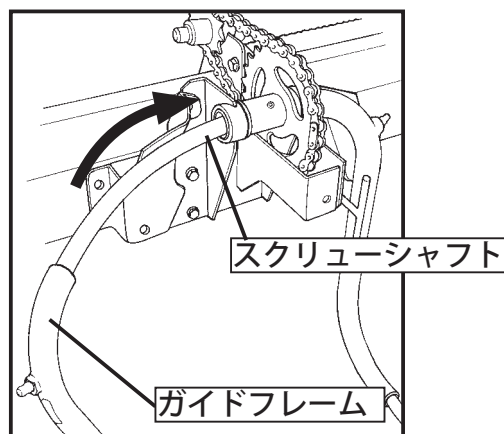
2) スクリーシャフトにグリスを塗布し、スプロケット及びガイドフレームにスクリーシャフトを通します。



3) スプロケットの六角穴止めねじを締付ける穴から1) でつけた印が見えるようにスクリーシャフトの位置を調整し、六角穴止めねじを2ヶ所均等に図1の位置まで締付けます。



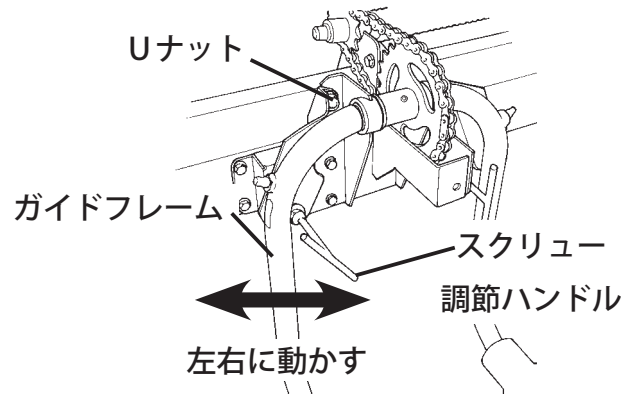
4) 取り外したガイドフレームにスクリーシャフトを通しながらガイドフレームを組付けます。スクリー内部の部品を組付けます。ホールドカラーにジョイントパイプを入れておいてからガイドフレームの溝にホールドカラーを組付けます。ホースカラーのすり割位置とジョイントパイプの穴位置が一致しないように、ホースカラーをスクリーシャフトとジョイントパイプの間に差し込みます。(ホースカラーが組みにくいときは少しすり割を広げてください。)



5) スクリューの方向に注意しながらスクリューを組付けます。ジョイントパイプの穴にスクリューの締付けボルトが通るように組付けます。ボルトは2箇所均等に締付けていきます。ホースカラーがつぶれるまで締付けてください。(締め過ぎないように注意してください。)

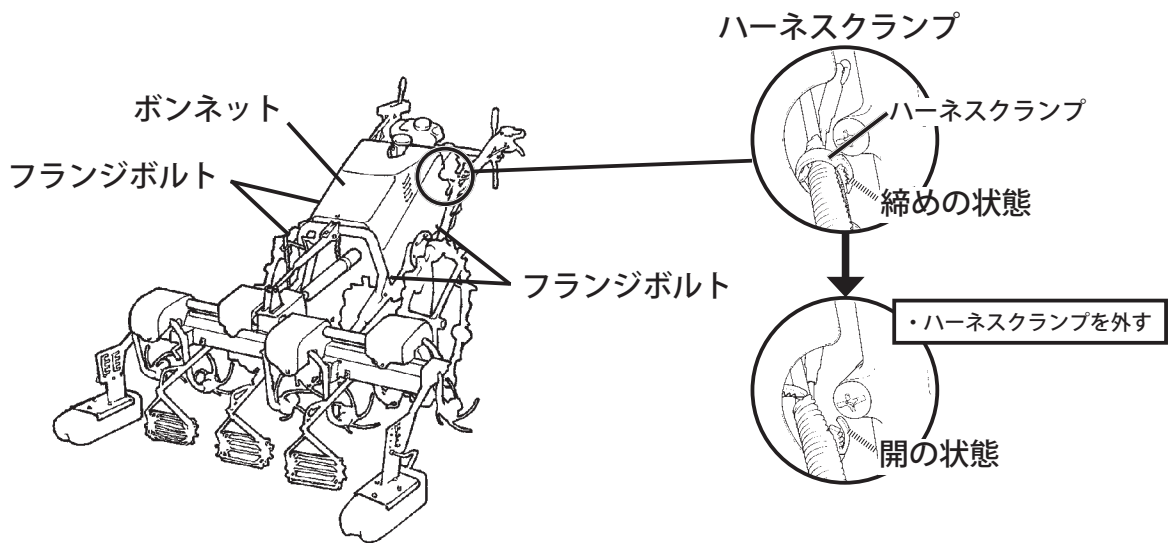
6) スクリュー調節ハンドルをゆるめてガイドフレームを左右に動かします。動かないときは動くところまでナットをゆるめます。

7) 最下段「7. チェンカバーの外しかた」の図を参照の上、チェンカバーを取り付けてください。



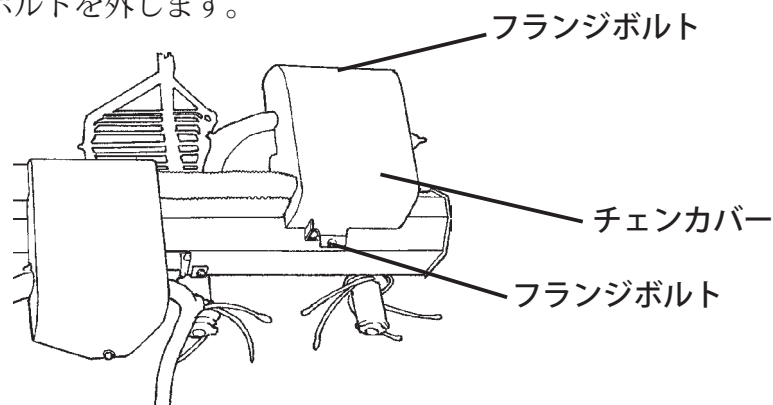
6. ボンネットの外しかた

- 1) ハーネスクランプを外します。
- 2) 4ヶ所のフランジボルトを外します。



7. チェンカバーの外しかた

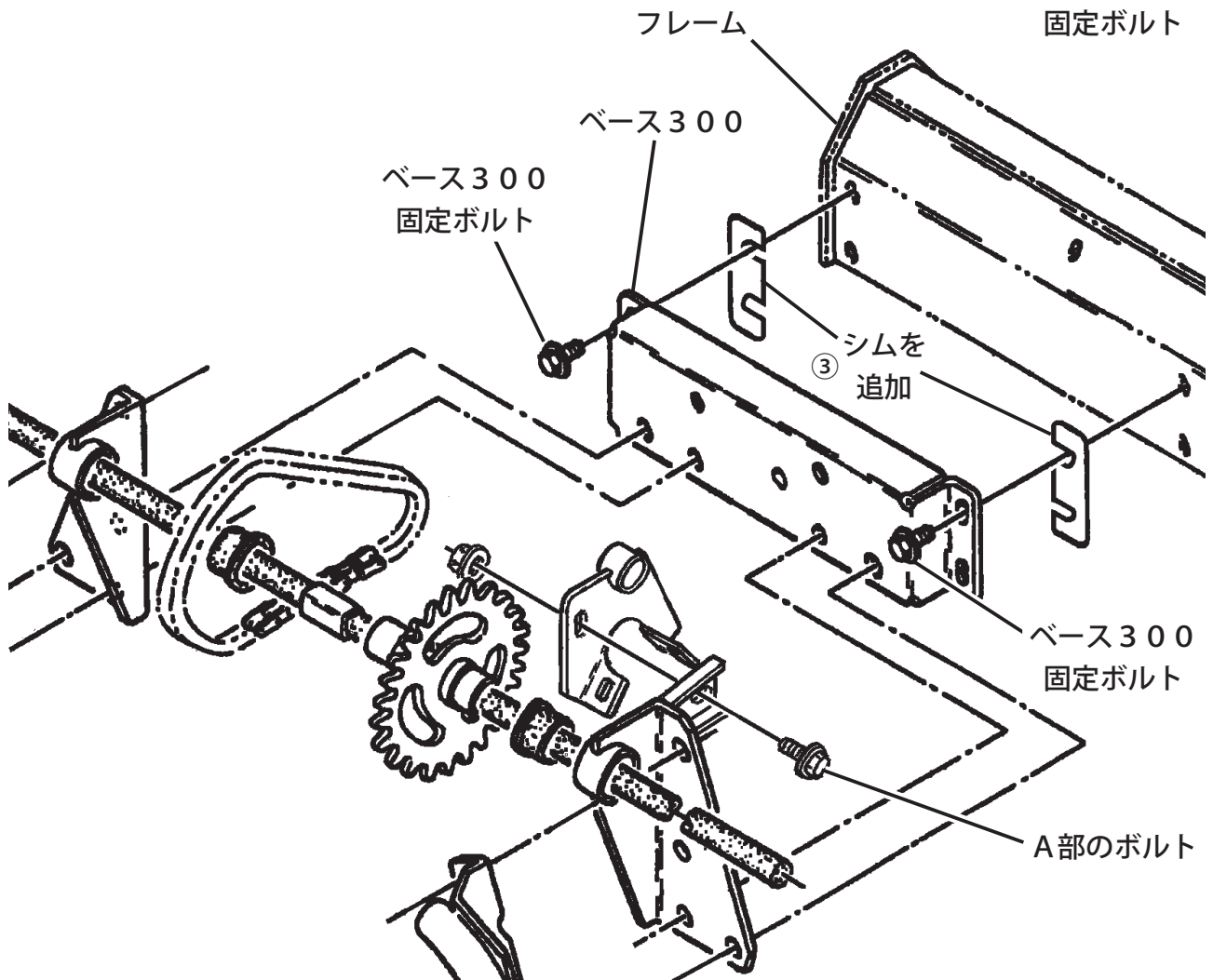
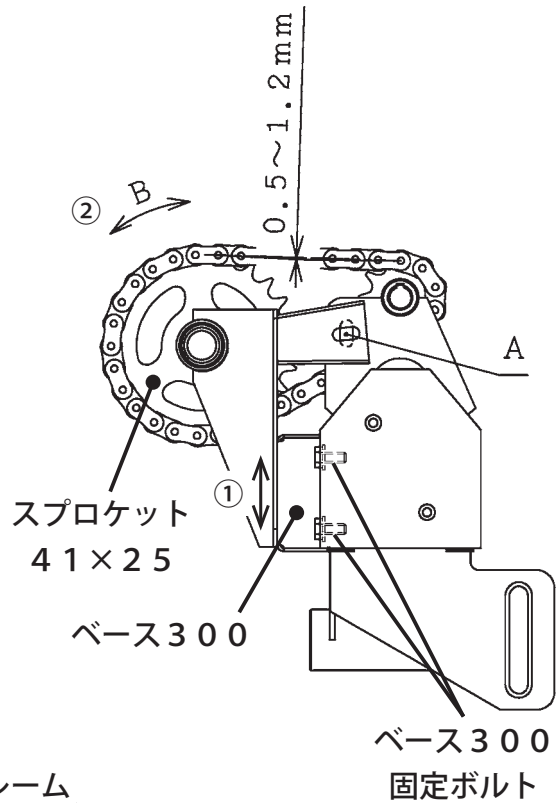
2ヶ所のフランジボルトを外します。



8. チェンの張り調整

チェンのたるみ量が0.5～1.2mmになるように調整します。

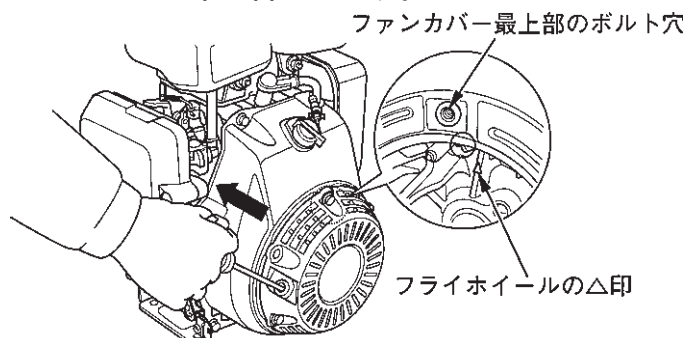
- ①ベース300固定ボルト（4ヶ所）をゆるめ、上下に移動させて調整します。
- ②たるみ量が基準値内にならないときは、A部のボルトを緩めてスプロケット41×25を矢印B方向に移動させて調整してください。
- ③上記の方法でも基準値内にならないときは、ベース300とフレームの間に付属品のシムを追加してください。



13章 長期間使用しないときの手入れ

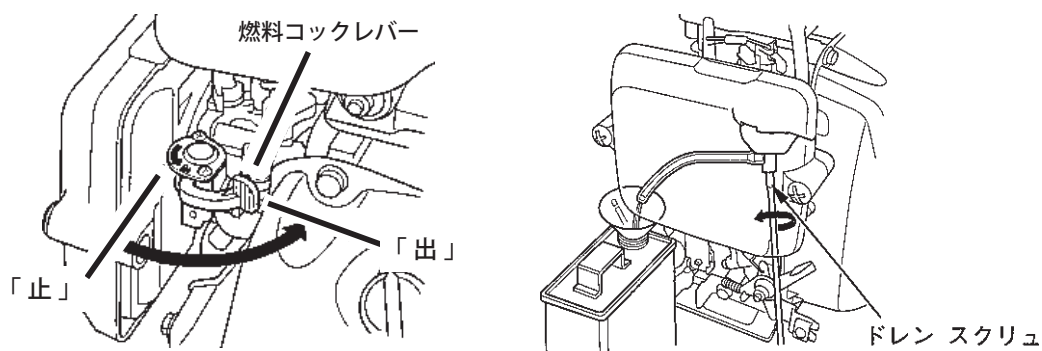
除草シーズンが終わり長期間保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 除草機についた泥や雑草を水でよく洗い落とし、十分に乾燥させてください。
2. エンジン停止状態で、始動グリップを引き、重くなったところでファンカバーの最上部のボルト穴とフライホイールの△印を合わせます。



3. 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。

1. 燃料コックレバーを「出」の位置に合わせます。
2. ドレンスクリューをゆるめ、燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
3. ドレンスクリューを締め付けます。
4. 燃料コックレバーを「止」の位置に合わせます。




- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
 - ガソリンを抜くときは
 - エンジンを停止してください。
 - エンジンが十分に冷えてから行ってください。
 - 火気を近づけないでください。
 - 換気の良い場所で行ってください。
 - ガソリンはこぼさないように抜いてください。
- 万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

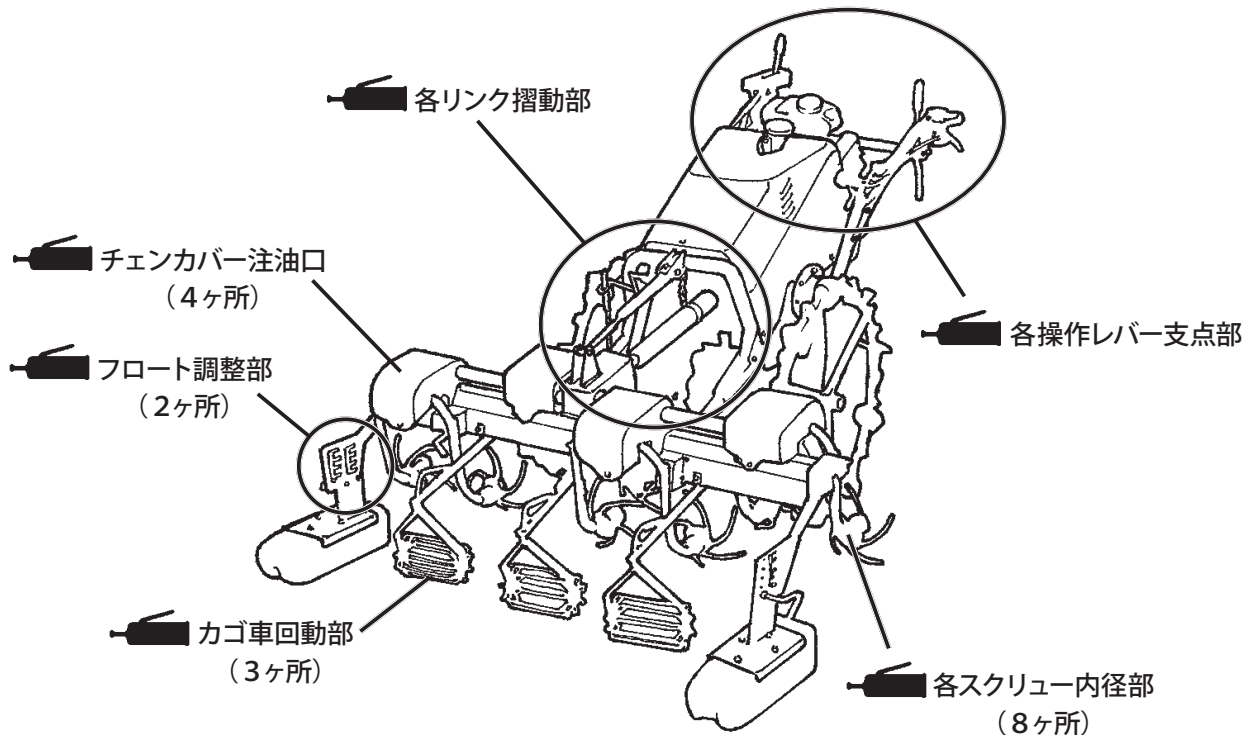
4. エンジンオイルを交換します。(58ページ「1. エンジンオイルの交換」参照)

5. 摺動部や回転部にグリスアップを行います。

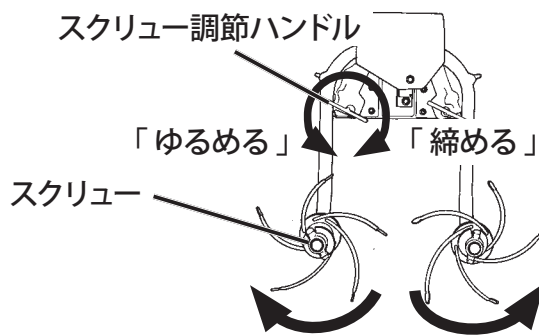
水気や汚れを拭き取り、乾燥させた後、各部にグリスを注油してください。グリスニップルに注油するときは回転部からグリスがにじみ出るまで注油してください。

 … グリスアップ箇所

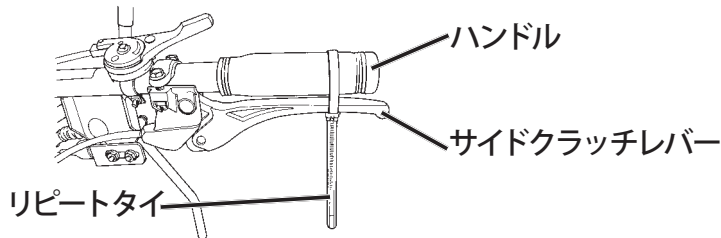
使用グリス… シェル アルバニア グリース S 2 または 同等品



6. 各条のスクリューを下図のように広げます。



7. サイドクラッチレバーとハンドルを、付属のリピータイを使用して締めます。
(シーズン初めには取り外し、大切に保管してください。)



8. エンジン等の加熱部が冷めてからビニール等でカバーをし、湿気、ほこりの少ないところに保管してください。

取扱いの注意

- ・ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。
- ・エンジンオイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(1年に1回新しいエンジンオイルと交換)

14章 不調診断のしかた

故障のときは、まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買い上げいただいた販売店へお申しつけください。

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
エンジンが始動しない	始動方法は間違っていないですか	P. 35「7章 エンジンのかけかた」を参照し正しい手順で行ってください。
	燃料が無くなっていませんか	P. 30を参照し補給してください
	燃料コックを開いていますか	P. 24を参照しコックを開いてください
スクリューが回転しない	スクリューシャフトが切れていませんか	P. 62を参照し交換してください。又は販売店に連絡し交換してください
	エンジンベルトが切れていませんか	販売店に連絡し交換してください
	作業ベルトがすべっていませんか(すべると、焦げ臭い匂いがします)	販売店に連絡し、調整(交換)してください
	チェンが切れていませんか	販売店に連絡し交換してください
	スクリュー締め付けフランジボルトがゆるんでいませんか	P. 33を参照し締め付けてください
	スプロケット締め付け六角穴止めねじがゆるんでいませんか	P. 33を参照し締め付けてください
	スクリューに雑草が絡まっていますか	スクリューに絡まった雑草を取り除いてください。
走行しない	変速レバーが「中立」になっていませんか	「前進」または「後進」に入れてください
	エンジンベルトが切れていませんか	販売店に連絡し交換してください
	走行ベルトが切れていませんか	販売店に連絡し交換してください
	走行ベルトがすべっていませんか(すべると、焦げ臭い匂いがします)	販売店に連絡し、調整(交換)してください
	無段変速機オイルが規定量入っていますか	P. 32を参照し補給してください
	チェンが切れていませんか	販売店に連絡し交換してください
エンジンに力がない	無理な除草作業をしていませんか	P. 44を参照しスクリューを調節し、適切な負荷で作業してください。
	エアクリーナが汚れていませんか	P. 59を参照し清掃してください
	エンジンオイルが規定量入っていますか	P. 31を参照し規定量入れてください
排気の色が黒い	負荷をかけすぎていませんか	P. 44を参照しスクリューを調節し、適切な負荷で作業してください。
排気の色が白い	エンジンオイルを入れすぎていませんか	P. 31を参照し規定量入れてください
ワンタッチロックができない	操作方法は間違っていないですか	P. 51を参照し正しい手順で行ってください
	ロックゲージの周りに雑草が絡まっていますか	絡まった雑草を取り除いてください
雑草が取れない	スクリューの位置が高くなっていませんか	P. 46を参照しフロートの高さを調節してください
	スクリューが回っていますか	P. 33を参照し点検してください
	スクリューが摩耗していませんか	販売店に連絡し交換してください
	爪が変形し小さくなっていませんか	販売店に連絡し交換してください
	エンジン回転が低くなっていませんか	エンジン回転を高くしてください
	車速が遅くないですか	車速を遅くしてください
除草にムラがある	作業部がバウンドしていませんか	P. 28を参照し重心を調整してください
	スクリューが回っていますか	P. 33を参照し点検してください
	爪が欠損していませんか	販売店に連絡し交換してください
	除草フレームが前後に傾いていませんか	P. 47を参照しトップリンクを調整してください
	ワンタッチロックのパイプキャップがロック位置にありますか	ワンタッチロックを解除してください
	除草機が極端に傾いていませんか	田植え機のわだちを避けて作業してください
苗が抜ける	除草時期は適正ですか	苗の生育に応じて作業してください
	苗にスクリューが近づきすぎていませんか	P. 44を参照しスクリューの調節をしてください
	スクリューに雑草や稲株が絡まっていますか	雑草や稲株を取り除いてください
	カゴ車が苗を倒していませんか	P. 45を参照しカゴ車を外してください
エンジンが停止しない	P. 24を参照し燃料コックを閉じてください(まもなく、エンジンは停止します)	販売店に連絡し、修理を受けてください

15章 その他

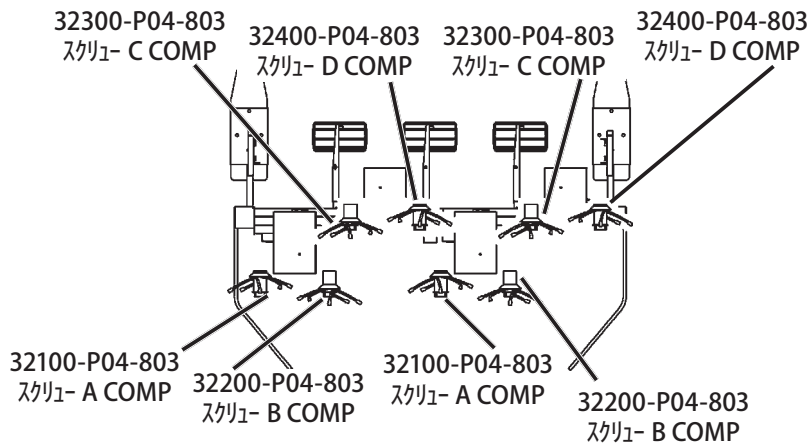
15-1.仕様

項目		型式	RSJ-430T	RSJ-433T
機体寸法	全長	mm	2050	
	全幅	mm	1340	1460
	全高	mm	1230	
	装備重量	kg	124	125
性能	除草幅	mm	1340	1460
	除草能率	a/h(分/10a)	~11(54~)	~12(50~)
エンジン	名称/型式		GX100 SJH	
	燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	最大出力	kW(PS)/rpm	2.1(2.9)/3600	
	始動方式		リコイルスタータ式	
	燃料タンク容量	リットル	0.77リットル	
走行部	型式		2輪 (ゴムラグ車輪)	
	車輪径	mm	660	
	トレッド	mm	600	660
	ミッション駆動		無段変速 (HST)	
	前進車速	km/h	0~3.4	
	作業車速	km/h	0~1.1	
	後進車速	km/h	0~0.9	
作業部	形式		スクリュース式	
	条数		4	
	適用植幅	mm	300	330
	スクリュース外径	mm	220	
	スクリュース間隔調整	mm	180 (最狭) ~ 268 (最広)	
	スクリュース高さ	段	5	
	ローリング角度	度	左右各8	

※ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600rpm (最大出力) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

15-2. 主要消耗部品・交換部品

部品番号	部品名	備考
32100-P04-803	スクリー A COMP	
32200-P04-803	スクリー B COMP	
32300-P04-803	スクリー C COMP	
32400-P04-803	スクリー D COMP	
34800-P04-007	スクリーシャフトCOMP	
34907-P04-000	ホースカラー	スクリーシャフトCOMPに使用
91652-0207023	レッドSIIベルト SA23	走行クラッチ
91652-0207024	レッドSIIベルト SA24	エンジン
91651-0511029	コグベルト RCLA29	作業クラッチ
91652-0208033	レッドSIIベルト SB33	サイドクラッチ
91661-4030036	チェン 1/2×1/8×36RB	作業駆動
91661-1902050	チェン 415S×50LE	走行一次
91661-1950039	チェン 50×39LE	走行二次
90601-ZE1-000	ワッシャー, ドレンプラグ 10.2MM	エンジンオイルドレン
17211-ZL8-023	エレメント, エアクリーナー	エアクリーナー過部 (紙製)
17218-Z0D-000	フィルター, アウター	エアクリーナー過部 (ウレタン)
98056-55777 または 98056-55757	プラグ, スパーク (CR5HSB) プラグ, スパーク (U16FSR-UB)	点火プラグ (NGK) 点火プラグ (DENSO)



15-3. 標準付属品

部品番号	部品名	個数	備考
	製品保証書、安全確認カード	1	
91901-P07-000	取扱説明書 (RSJ-430T、433T)	1	
	エンジン取扱説明書	1	
34800-P04-007	スクリーシャフトCOMP	4	
34907-P04-000	ホースカラー	8	スクリーシャフトCOMPに使用
99104-00030	6カクレンチ3	1	スクリーシャフト固定用
91311-250	リピータイRF250	2	サイドクラッチ固定用
39901-P04-800	シム	16	チェン張り調整用

